

大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

要覧2011





大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

## 要覧2011

### 目次

機構長あいさつ	1
設立の経緯と目的／沿革／歴代機構長	2
組織図	3
人間文化にかかわる総合的研究推進	4
事業概要	4
I 連携研究	5
II 連携展示	6
III 研究資源の共有化	7
IV 日本関連在外資料の調査研究	8
V 国際連携協力	9
VI 地域研究の推進	10
VII 情報発信	12
知的財産	13
研究活動アーカイブ	14
各機関の活動	16
・ 国立歴史民俗博物館	16
・ 国文学研究資料館	20
・ 国立国語研究所	24
・ 国際日本文化研究センター	28
・ 総合地球環境学研究所	32
・ 国立民族学博物館	36
資料	40
委員会一覧	40
経営協議会/教育研究評議会/総合研究推進委員会/ 評価委員会/機構会議/企画・連携・広報室会議/ 研究資源共有化事業委員会/地域研究推進委員会/ 日本関連在外資料調査研究委員会	
データ一覧	42
役職員数/予算/施設一覧/共同研究の件数および共同研究員数 在籍/ 研究者の受け入れ/外部資金の受け入れ/協定締結一覧/ 大学院教育/特別共同利用研究員	

### 表紙

「黒綸子地虫籠に四季草花鶴亀宝尽模様縫腰巻」  
国立歴史民俗博物館

## ごあいさつ



平成23年3月11日、東日本太平洋岸を襲った巨大地震・津波は、2万人以上の人々の死と行方不明をもたらしました。壊滅した市街や農・漁村は夥しく、避難を余儀なくされている人々も膨大な人数におよんでいます。命を失われた方々の御冥福を心から御祈りし、被災地が一日も早く復興することを念じます。

このような未曾有の大災害に遭遇し、改めて再認識されているのが日常生活の重要性です。地域によって異なりますが、人々の多様な日常生活こそが人間文化の基本です。人々の生活は、豊かな言語と思考に満たされ、技術の蓄積に基

づいた経済活動に従事することで成り立っています。家族・親族はもとより、地域やコミュニティとともにあって、それぞれの歴史や民俗・芸術に彩られています。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構は、平成16年(2004)に国立大学法人化とともに設立された人間文化の研究組織です。当初は5研究機関で発足し、平成21年から6研究機関となっています。本機構では、各研究機関がそれぞれのディシプリンに基づく設立目的を果たすと同時に、相互に連携し、また広く内外の文系研究者の中心となって大学などの共同利用と共同研究を推進しています。研究機関によっては複数のディシプリンに立脚し、また新しいディシプリンの確立をめざしている場合もあります。

ここで言うディシプリンとは、それぞれの専門性に基づく一定の研究視角の展開とその継承をめざすものです。人間文化を豊かに発展させるためには欠くことのできないことがらです。大学共同利用機関法人として、その一翼をになう自覚と責任を認識しつつ事業を推進し、ひいては、それが知的社会の質の向上に資することを期しております。

平成23年5月

大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構

機構長

金田 章裕

## 設立の経緯と目的

大学共同利用機関とは、各研究分野における我が国の中核的研究拠点(COE)として、個別の大学では維持が困難な大規模な施設設備や膨大な資料・情報などを国内外の大学や研究機関などの研究者に提供し、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構は、平成16年(2004)4月1日に設立され、当初は、人間文化にかかわる大学共同利用機関である、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所および国立民族学博物館の5つの機関で構成されていました。

平成21年(2009)10月1日には、新たに国立国語研究所が加わり、現在は6つの機関によって構成されています。

機構は、これら6つの研究機関が、それぞれの設立目的を果たしながら基盤研究を進めるとともに、学問的伝統の枠を越えて相補的に結びつき、自然環境をも視野にいれた人間文化の研究組織として、大学共同利用の総合的研究拠点を形成するものです。

また、膨大な文化資料に基づく実証的研究、人文・社会科学の総合化をめざす理論的研究など、時間・空間

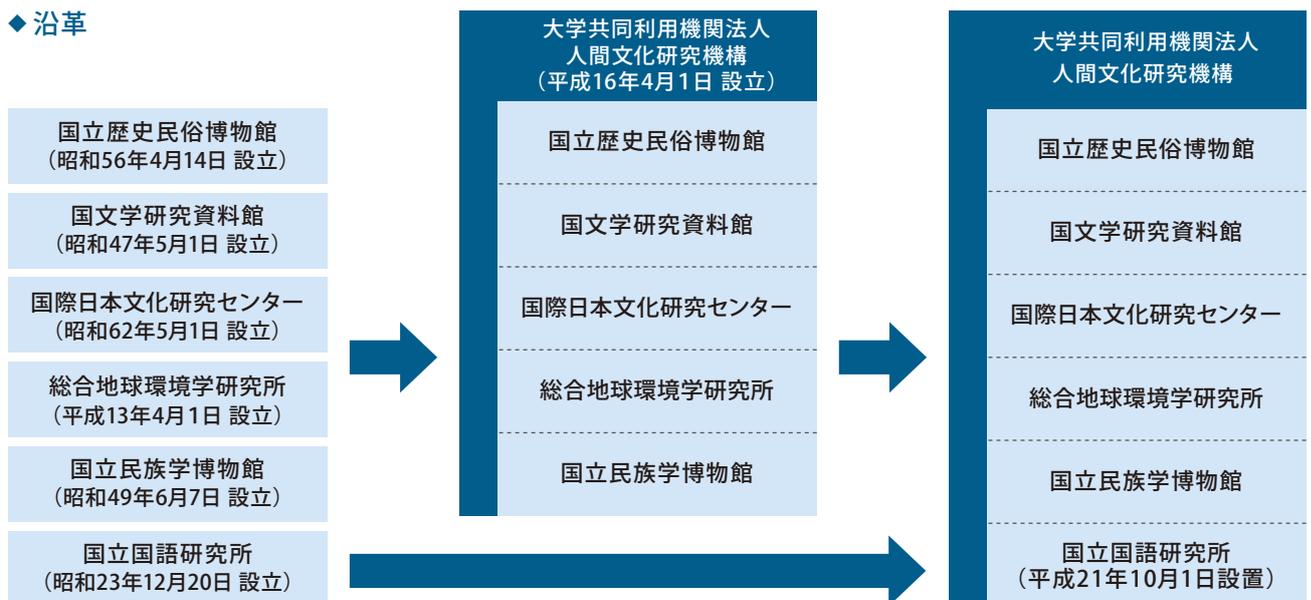
の広がり視野にいれた文化にかかわる基礎的研究はもとより、自然科学との連携も含めた新しい研究領域の開拓に努め、人間文化にかかわる総合的学術研究の世界的拠点となることをめざしています。

機構は、6つの研究機関が全国的な研究交流の拠点として研究者コミュニティに開かれた運営を確保するとともに、関連する大学や研究機関との連携・協力を促進し、研究者の共同利用および多面的な共同研究を積極的に推進します。

機構には、国立歴史民俗博物館や国立民族学博物館および国文学研究資料館など、博物館機能や展示施設を有した機関が参画しており、その特徴ある機能を利用して、研究情報および研究成果を連携的に展示したり、さらには刊行物やあらゆる情報機能を活用したりして、広く国内外に発信し、学術文化の進展に寄与しています。

21世紀を迎えた今日、自然と人間の営為が地球規模で急激に絡み合い、さまざまな難問が顕在化しています。人間文化研究機構は、すべての学問の基礎である人間文化研究の重要性を再提示し、21世紀の課題に立ち向かおうとしています。

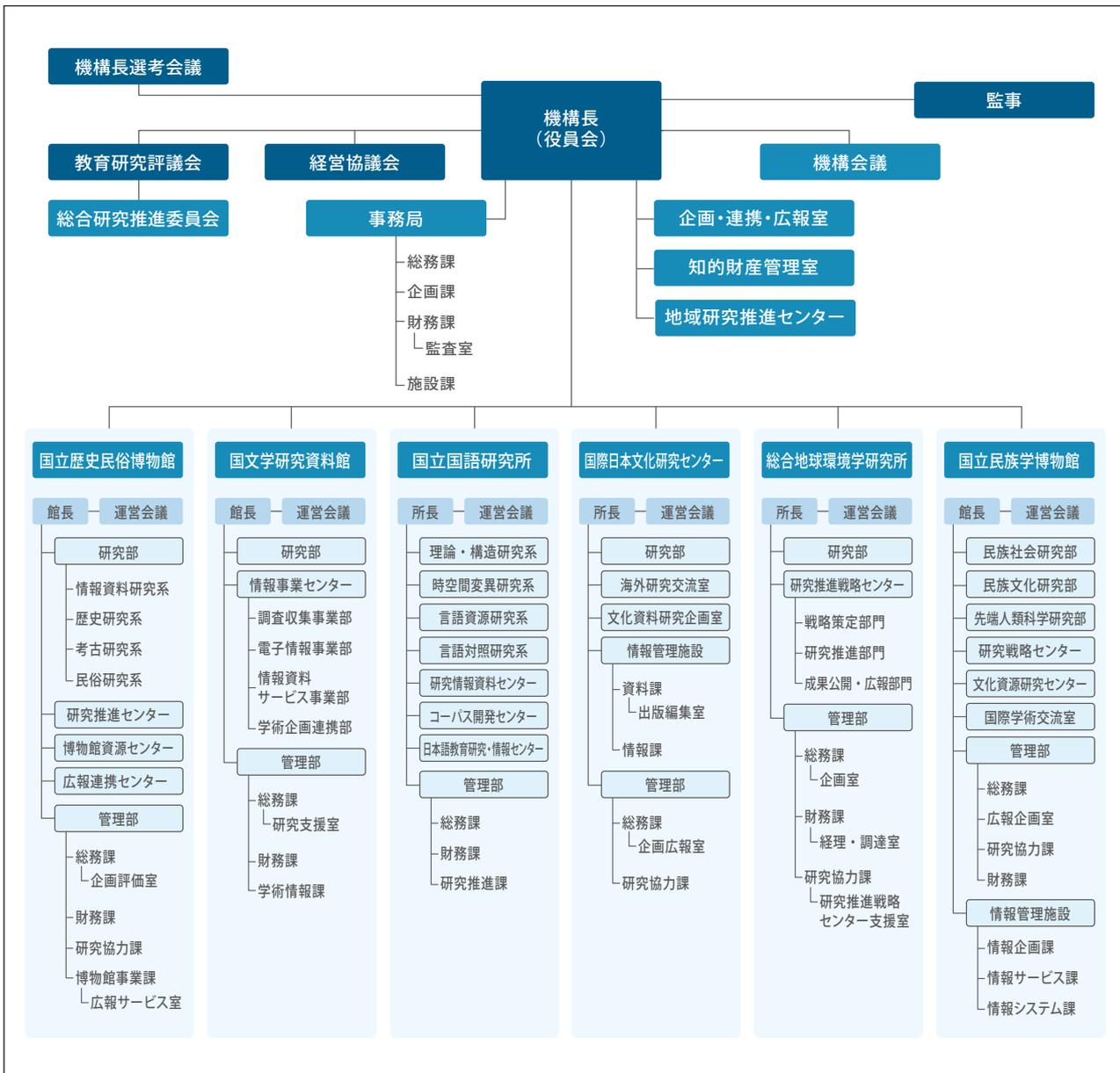
### ◆ 沿革



### ◆ 歴代機構長

初代 石井 米雄【平成16年(2004)4月1日～平成20年(2008)3月31日】  
2代 金田 章裕【平成20年(2008)4月1日～現在】

# 組織図



## ❖ 機構役員

金田 章裕	機構長
中尾 正義	理事
小野 正敏	理事
栗城 繁夫	理事(兼)事務局長
石上 英一	理事(非常勤)
広渡 清吾	監事(非常勤)
駒形 圭信	監事(非常勤)

## ❖ 各機関の長

平川 南	国立歴史民俗博物館長
今西 祐一郎	国文学研究資料館長
影山 太郎	国立国語研究所長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
須藤 健一	国立民族学博物館長

## ❖ 機構本部

小野 正敏	企画・連携・広報室長
中尾 正義	知的財産管理室長
中尾 正義	地域研究推進センター長

# 人間文化にかかわる総合的研究推進

## 事業概要

21世紀における人類にとって最も重要で緊急の課題は、地球における人類の存続と、世界における人間の共生です。この難問を解く鍵は「文化」にあるとの発想に基づき、機構は人間文化研究の新たな領域を、従来の枠組みを越えて創出し、先端的・国際的な研究を展開するために研究活動を推進しています。

平成22年度から、教育研究評議会のもとに総合研究推進委員会を設置し、機構および各機関の研究活動に関するレビューを行い、機構における新たな学問領域の創成、ならびに機構および各機関の組織・運営のあり方にかかわる方向性について検討しています。

各機関独自の活動に加えて、機構としての一体的な取り組みも行ってきました。専門領域の異なる6つの研究機関がお互いに連携して実施する「連携研究」や「連携展示」は、機構発足当時より実施しています。

また、各機関の蓄積した人間文化にかかわるデータベースを、総合的に検索する研究資源の共有化システムを開発し、より便利に研究者および一般の利用者に提供する「研究資源の共有化」や、我が国にとって重要であるにもかかわらず、拠点形成が遅れている「イスラーム地域」、「現代中国」および「現代インド」を対象とした「地域研究の推進」といった研究プロジェクトを推進しています。

これらのほか、プレゼンスの相対的な地位低下傾向のみられる海外諸地域における日本研究を支援し、日本関連在外資料をめぐる国際共同研究を開始しています。

機構はこれらの活動をとおして機構としての一体的な取り組みを行いながら、さらなる研究活動推進体制の構築・拡充を図り、人間文化にかかわる総合的な学術研究の発展に寄与することをめざしています。



第14回公開講演会・シンポジウム「ことばの類型と多様性」  
写真 戸田修太郎

### ◆おもな活動

- I 連携研究
- II 連携展示
- III 研究資源の共有化
- IV 日本関連在外資料の調査研究
- V 国際連携協力
- VI 地域研究の推進
- VII 情報発信

## I 連携研究

機構を構成する機関が培ってきた研究基盤と成果を、機関を越えて繋ぎ、補完的、有機的に結合させることで、新たな視座を開拓し、より高次なものに発展させようと企画、実施してきたのが「連携研究」です。

第2期中期目標期間では、中心となる連携研究の課題として次の2つのテーマを設定しています。

### 「人間文化資源」の総合的研究

(研究代表者:国立民族学博物館 田村克己)

本研究は、資源を人間とのかかわりにおいてとらえ、人類の歴史を多様な資源の開発と利用という観点から探究し、さまざまな時代や地域における実践や制度、観念や価値を資源活用との関連で再検討することを主題としています。ここで取り上げる「人間文化資源」とは、人間文化を対象とする諸科学の研究資料をさし、図書館・文書館の典籍(図書・書物)・文書資料や博物館の標本資料・映像音響資料はもとより、考古遺跡や歴史的建造物、祭礼・儀礼や伝統芸能なども含まれます。

文書資料(I)、生活資料(II)、映像資料(III)のカテゴリーそれぞれに研究班が組織されています。Iは「正倉院文書の高度情報化研究(代表者:国立歴史民俗博物館 仁藤敦史)」、「9-19世紀文書資料の多元的複眼的比較研究(代表者:国文学研究資料館 渡辺浩一)」、IIは「近現代の生活と産業変化に関する資料論的研究(代表者:国立歴史民俗博物館 青木隆浩)」、IIIは「映像による芸能の民族誌の人間文化資源的活用(代表者:国立民族学博物館 福岡正太)」、「歴史研究資料としての映画の保存と活用

に関する基盤的研究(代表者:国立歴史民俗博物館 内田順子)」、「人間文化資源の保存環境研究(代表者:国立民族学博物館 園田直子)」です。

### アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明

(研究代表者:総合地球環境学研究所 秋道智彌)

日本を含むアジア地域には、歴史的に形成された多様な文明と文化が存在します。とくに冷温帯から熱帯に至る気候下で、自然とかがわるなかで形成されてきた文化は目を見張るものがあります。人間は自然からどのような恩恵を受け、あるいは災害や自然の脅威に対処してきたのでしょうか。

この問題を、(1)言語世界から見た自然への認識と思想、言語表現の多様性と普遍性、(2)自然の模倣と擬人化などを通じた「自然の文化への取り込み」と表象・図像学の研究、(3)森林・河川・沿岸域における自然の保全と利用上の慣行、共有資源(コモンズ)の運用をめぐる社会経済史とガバナンスの3課題に焦点を当て、人間文化研究機構の人的な資源を結集して研究を行います。特に、国立国語研究所、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所が核となって研究を推進します。

また、研究連絡誌として『人と自然』を年に2冊程度発行し、分野横断的な議論の活性化をめざします。創刊号では「火」を取り上げました。2号では「音の世界」をテーマとし、以下、魅力的な特集テーマを企画しています。なお、上記3課題の研究は個別に進めるのではなく、同じ現地調査を班員が共有するなどの工夫を凝らすこととしています。



正倉院文書複製製作風景(正倉院事務所)



北タイのメーホンソン県のパイ市内にある仏教寺院には、ミャンマーとの紛争で活躍した英雄を祀る廟がある。そこでは、闘鶏を通じて勝利したことを示すシャモの大きな木彫が何体も飾られている。

# 人間文化にかかわる総合的研究推進

## II 連携展示

機構は大学共同利用機関として、膨大な研究資料・情報を収集、調査研究し、それらを広く学界や社会に公開することを機能の中心に掲げています。さらに、共同研究をはじめとする種々の研究成果について、刊行物・データベース・講演会・シンポジウムなどに加えて、展示によって迅速に国民に公開し、理解を進める、特色のある社会連携をめざしています。特に、国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館は、大規模な展示施設を有し、常設展示・企画展示を行っており、平成20年からは国文学研究資料館も、展示室の公開を開始しました。

機構の特徴を活かした展示形態のひとつとして、複数機関が連携して研究の成果などを公開する「連携展示」を推進しています。

### 平成23年度 連携展示

「描かれた都市—京都と江戸」

平成24年3月27日～5月6日

第I部「洛中洛外図屏風と風俗画」

国立歴史民俗博物館

第II部「江戸名所と風俗画」

国文学研究資料館

(実施代表者:国立歴史民俗博物館 小島道裕)

中世～近世の都市社会の様相を知る上で、具体的な都市を題材に描かれた絵画は、とても重要な素材です。国立歴史民俗博物館と国文学研究資料館は、教員を中心に「都市風俗画研究会」を続けていますが、それをふまえて京都と江戸を描いた絵画資料の展示を企画しました。

京都に関しては、国立歴史民俗博物館が6点を所蔵し



洛中洛外図屏風歴博甲本 国立歴史民俗博物館蔵

ている各時代の洛中洛外図屏風や、屏風絵などの風俗画について、歴史的な展開を考えます。江戸については、「江戸図屏風」などの都市図のほか、浮世絵や職人尽絵、絵入りの版本などをあつかい、特に名所がどのように表象されたかを考えます。

両館が新たに収蔵した初公開の資料や、機構外部の機関が所蔵する著名な作品、それに洛中洛外図屏風歴博甲本の復元複製なども登場します。展示室では、拡大装置などの電子的なメディアも使って、描かれた内容を一緒に考えていただきます。

「地球の感じかた—子どもたちに伝える自然と文化」

平成23年11月 愛・地球博記念公園 愛知県

平成23年12月 台東大学 台湾

総合地球環境学研究所／国立歴史民俗博物館／国立民族学博物館／国際日本文化研究センター

(実施代表者:総合地球環境学研究所 阿部健一)

今日的課題である地球環境問題の解決と異文化の理解。そのために重要なのは、子どもたちを対象とした活動です。本展示では、総合地球環境学研究所が所蔵する『国連子ども環境ポスター原画コンテスト』応募作品を活用し、研究者が子どもたちに語りかける場を一連のワークショップ・展示のなかに設けます。

これまでの国内での活動実績と連携研究「日本およびアジアにおける人と自然の相互作用に関する統合的研究—コスモロジー・歴史・文化」の成果をふまえ、海外機関との連携により、日本と世界の子どもたちの「感性」を展示することで、健全な知性ととともに、自然と文化に関する鋭敏で豊かな感性を育むことをめざします。



子どもたちがつくる国連環境ポスター展／Workshop 報告書  
「地球への感性—創造的な鑑賞による学びの実践」



### III 研究資源の共有化

機構の各機関や地域研究拠点が蓄積した情報資源の学界での共有化推進のため、研究資源共有化システムを人間文化研究総合推進事業の一環として平成20年度に公開し、第2期中期目標期間の「人間文化研究の連携共同推進事業」においても引き続き展開しています。事業は、企画・連携・広報室のもとに、各機関の情報システム関係教員と学界有識者からなる研究資源共有化事業委員会を設置し推進しています。研究資源共有化システムは、6機関の100を超えるデータベース(平成23年3月、118データベース)を横断検索する「統合検索システム」と、小規模なデータベースを容易に公開できる研究者参加型の「nihuONEシステム」、時間(年代・時代など)・空間(地理的位置・地名など)の分析システムから構成されています。

委員会では、人間文化研究にかかわる学界の諸機関、研究者と連携した資源共有化環境の構築を推進しています。平成21年度に、学界に広く呼びかけて、

「人間文化研究情報資源共有化研究会」を発足させました。平成21・22年度開催の5回の研究会の報告は、『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集』I(平成22年3月)、同II(平成23年3月)として公開しています。また、平成22年10月に、『研究資源共有化システムニュースレター』を発刊しました(年2回刊行)。

学界連携推進事業として、国立国会図書館関西館と覚書を締結し、国立国会図書館デジタルアーカイブポ

ータルPORTAと統合検索システムの双方向の検索を平成22年7月から開始しました。時空間分析システムは平成22年9月から分析ツール「GT-Map/GT-Timeシステム」をフリーソフトウェアとして学界に公開しています。



研究資源共有化システム  
ニュースレター 第1号

#### 【統合検索システムから利用できるデータベース】

**国立歴史民俗博物館**▶ 館蔵資料/館蔵中世古文書/館蔵近世・近代古文書/館蔵紀州徳川家伝来楽器/館蔵武器器具(実物資料)/館蔵武器器具(文献史料)/館蔵錦絵/館蔵『懐溜諸屑』/館蔵野村正治郎衣裳コレクション/館蔵染色用型紙/館蔵縄文時代遺物/館蔵装身具/館蔵高松宮家伝来禁裏本/兼頼卿記/歴博図書目録/日本荘園/荘園関係文献目録/自由民権運動研究文献目録/棟札/古代・中世都市生活史/江戸商人・職人/中世制札(制札)/中世制札(文献)/中世地方都市(都市)/中世地方都市(文献)/陶磁器出土遺跡(遺跡)/陶磁器出土遺跡(文献)/土偶/近世窯業遺跡/近世窯業関係主要文献目録/城館地下発掘(遺跡)/城館地下発掘(文献)/弥生石器遺跡(遺跡)/弥生石器遺跡(図面)/東国板碑(遺跡等)/東国板碑(板碑)/東国板碑(文献)/民俗誌/日本民俗学文献目録/宮座研究論文/民俗語彙/俗信

**国文学研究資料館**▶ 収蔵歴史アーカイブズ/吾妻鏡/絵入源氏物語/二十一代集/日本古典文学本文/図書・雑誌所蔵目録/近代文献情報(近代書誌・近代画像)/コーニツキー版 欧州所在日本古書総合目録/古筆切所収情報/[史料所在情報・検索]システム/新奈良絵本/歴史人物画像/国文学論文目録/近代文献情報(明治期出版広告)/史料情報共有化/和刻本漢籍総合/館蔵神社明細帳/連歌・演能・雅楽/古典学統合百科(伝記解題)/古典学統合百科(地下家伝・芳賀人名辞典)/古典籍総合目録/アーカイブズ学文献

**国立国語研究所**▶ ことばに関する新聞記事見出し/図書目録

**国際日本文化研究センター**▶ 貴重書/西洋医学史古典文献(野間文庫)/宗田文庫図版資料/日本研究機関/絵巻物/怪異・妖怪絵姿/近世風俗図会/ちりめん本/米国議会図書館所蔵奈良絵本/平安京都名所図会/平安人物志短冊帖/平安人物志/米国議会図書館所蔵浮世絵/都年中行事画帖/Japan Review/日文研フォーラム報告書/日本研究/於竹大日如来縁起絵巻/怪異・妖怪伝承/季語検索/近世崎人伝(正・続)/考古学GIS/図録 米欧回覧実記/錦絵観音霊験記の世界/俳諧/連歌/和歌/在外日本美術/日本関係欧文図書目録/所蔵地図

**総合地球環境学研究所**▶ 世界地図/所蔵図書/西表文献/映像資料

**国立民族学博物館**▶ 標本資料目録/標本資料詳細情報/標本資料記事索引/映像資料目録/ビデオテープ/音楽・芸能の映像/カウフマン・アフリカ古地図コレクション/音響資料目録/音響資料曲目/図書目録/雑誌目録/中西コレクション—世界の文字資料—/衣服・アクセサリ/身装文献

**nihu ONE**▶ 東洋文庫・中華教育界目録/生態史写真資料/生態史文献資料/中国環境問題研究/西周「百学連環」/日中戦争期中国研究文献

**国立国会図書館 PORTA**▶ 近代デジタルライブラリー/貴重書サンプル/貴重書画像/NDL蔵書目録(和図書・和雑誌)/カレントアウェアネス

#### 【nihu ONE システムで公開されているデータベース】

縄文集落/縄文集落文献/アーカイブズ学文献/生態史写真資料/生態史文献資料/梅村忠夫著作目録/和漢オントロジ/東洋文庫・中華教育界目録/幕末明治地図/幕末明治地図—郡名/中国環境問題研究/西周「百学連環」/日中戦争期中国研究文献

# 人間文化にかかわる総合的研究推進

## IV 日本関連在外資料の調査研究

欧米やアジア諸国に所在する日本関連の在外資料に関しては、海外における専門研究者の不在や個人所蔵であるなどの理由により、資料所在情報をはじめ、詳細調査による資料価値の掌握されていない貴重な資料が多数存在します。

平成22年度より日本関連在外資料の国際共同研究を開始し、欧米などにおける日本文化研究の比重低下の打開と日本文化の世界史的意義を明らかにすることをめざしています。これまでの各機関や研究者による研究テーマ別の調査研究から一歩進めて、機構に「日本関連在外資料調査研究委員会」を設置し、そのもとに一体的な研究体制をつくり、多様な資料の総合的調査研究の推進、機構外の連携機関（東京大学史料編纂所・東洋文化研究所、京都大学人文科学研究所）などとともに海外機関との協力・協業による国際研究ネットワーク構築を進めます。

第2期中期目標期間では、近世以降に日本から持ち出された「流出」資料群と近代以降の日本人の活動などにより海外に残された「滞留」資料群という視点で、次の2テーマを推進します。

### A 「シーボルト父子関係資料をはじめとする前近代（19世紀）に日本で収集された資料についての基本的調査研究」

（総括責任者：国立歴史民俗博物館 久留島浩）

シーボルト（父子）関係資料のほか、海外に所在する19世紀の日本関連資料のいくつかについて、デジタル画像つき詳細調査目録を作成することで、今後こうした資料群の「共有資源」化を進める調査研究モデルを構築する



「ブランデンシュタイン家の調査風景」

ことをめざしています。前者では、とくにシーボルトとほぼ同時期のオランダ商館員だったブロンホフ、フィッセルのコレクションをも含めて19世紀前半の日本関連コレクションの「規準」資料化を図り、シーボルト（父）の再来日時の収集資料および、子どもたち（アレクサンダー、ハインリッヒ）にかかわるコレクションの総合的調査研究を行うことで、19世紀後半の日本関連在外資料の「規準」資料化を進めます。平成23年度は、ミュンヘン国立民族学博物館、ライデン国立民族学博物館、ライデン大学、ボッフム大学、ブランデンシュタイン家、サンクトペテルブルクのクンストカメラなどで調査を実施するとともに、10月にはシーボルト国際会議日本委員会とともに天津市などで国際シンポジウムを開催する予定です。このほか、19世紀の著名なコレクションであるモース・コレクション（ピーボディ・エセックス博物館など）の調査、イギリスのウェールズ国立博物館、アメリカのイエール大学などでの調査を予定しています。

### B 「近現代における日本人移民とその環境に関する在外資料の調査と研究」

（総括責任者：国際日本文化研究センター 鈴木貞美）

平成22年度に開始した近現代移民関連資料の調査研究チームは、企画を軌道にのせるための国際シンポジウムやワークショップを開催し、スタートを切ることができました。

アメリカ大陸チームはブラジル移民新聞のデータベースを作成、総括チームは対中国戦争期の民間プロパガンダを代表する『文藝春秋』付録『Japan To-day』の総合的研究書を刊行しました。

これらに対して、アメリカ、中国各地などから、種々の連携事業の申込みなどの反応が寄せられており、それらへの対応を検討しています。

平成23年度は、各現地調査を進め、できることからデータベースの公開など成果を目に見えるかたちにしてゆくことを目標にしています。

とくに植民地関連では、中国チームが『満洲小事典』の企画と執筆、そのための資料調査を進めます。総括チームは、国内資料の目録類、アメリカ議会図書館など現地外の資料保管状態の把握に努め、全体の調整を効率的に進めることに留意します。



『Japan To-day』の研究  
—戦時期『文藝春秋』の海外発信  
鈴木貞美編（日文研叢書）

## V 国際連携協力

人間文化研究にかかわる諸外国の研究機関との研究協力関係の構築を図り、外国人研究者招へい、研究者の海外派遣を進めるとともに国外における国際研究集会・シンポジウムの開催やそれへの研究者の参加を積極的に支援しています。

具体的な支援方法としては、機構を構成する6つの研究機関の提案による国際的な連携協力を推進する活動を、企画・連携・広報室会議で審議し採択しています。平成23年度は、国立民族学博物館が主催する国際ワークショップ「手話の歴史言語学—データベースの構築と一般歴史言語学における展開を目指して」および国際フォーラム「東アジアの光と影—健康、富裕、飢餓」の開催を支援します。

機構では、英国の芸術・人文リサーチ・カウンシル(AHRC)、フランスのフランス高等研究所(IEA)、オランダの国際アジア研究所(IIAS)と協定を締結して国際連携研究協力を推進しています。

各機関においても、従前から独自の国際連携協力ネットワークを構築しており、平成22年度には北京大学国際漢学研修センター、中国国家図書館古籍館、中国国家典籍保護センターと共催で国際集会、インドネシア大学での海外シンポジウム、国立民族学博物館で国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」、国立サン・マルコス大学(ペルー)との共同発掘調査など、研究協力協定を締結している外国機関との国際連携協力事業を実施しました。

また、AHRCとの協定に基づき、英国の大学院生の受け入れのためピアレビューを実施し、平成22年度は3名の大学院生を国立国語研究所および国際日本文化研究センターで受け入れました。平成23年1月には協定内容を更新し、大学院生の受け入れに加えて、若手研究者の相互交流の道を開きました。

今後も各機関の国際連携活動を推進するとともに、新たな国や研究機関も視野に入れた国際連携協力の方策を検討していきます。



国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」



国立サン・マルコス大学との共同発掘調査(パコパンパ遺跡)



AHRCとの協定更新

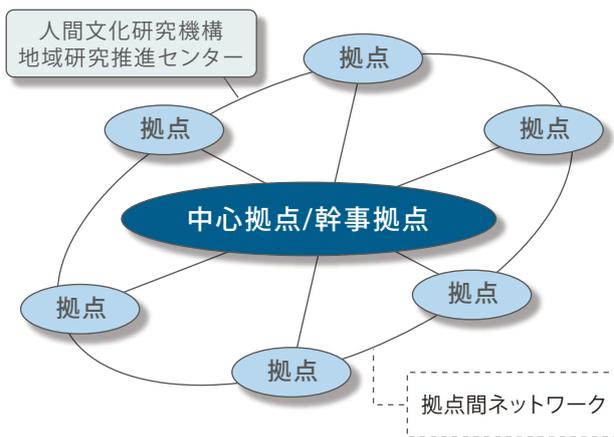
# 人間文化にかかわる総合的研究推進

## VI 地域研究の推進

機構は、我が国にとって学術的、社会的に重要な意義を有する地域の文化・社会を、総合的に理解・解明するため、関係大学・機関と協力して、平成18年度から、「地域研究の推進」を行っています。

### 事業の実施方式

地域研究の推進は、関係大学・機関と地域研究の研究拠点を共同設置し、拠点間のネットワークを構築して、特定重要地域の研究を総合的に推進する新しい方式の研究事業です。



学識経験者で構成する機構の「地域研究推進委員会」において、対象地域として「イスラーム地域」、「現代中国」および「現代インド」を選定しました。それぞれ事業基本計画と研究計画を策定して研究体制を整備し、「イスラーム地域」は平成18年度から、「現代中国」は平成19年度から、「現代インド」は平成22年度から研究を進めています。

機構のもとに設置された「地域研究推進センター（センター長 中尾正義）」で、地域研究の推進に必要な研究者を「地域研究推進センター研究員（機構研究員）」として採用し、各拠点へ派遣しています。研究員は、各拠点の形成と運営のための実務および共同研究の推進を担っています。

### イスラーム地域研究

早稲田大学イスラーム地域研究機構

「イスラーム地域研究所」 ※イスラーム地域研究中心拠点  
・研究テーマ「イスラームの知と文明」  
・拠点代表…湯川武 ・機構研究員…西村淳一・吉村武典

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文学開発センター「イスラーム地域研究部門」  
・研究テーマ「イスラームの思想と政治：比較と連関」  
・部門の長…小松久男 ・機構研究員…河原弥生



タフリール広場でのデモ(エジプト)



アクサライモスクの礼拝(トルコ)

上智大学研究機構「イスラーム研究センター」

・研究テーマ「イスラーム近代と民衆のネットワーク」  
・センター長…私市正年 ・機構研究員…三代川寛子

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

「イスラーム地域研究センター」

・研究テーマ「イスラーム世界の国際組織」  
・センター長…小杉泰 ・機構研究員…今松泰

財団法人東洋文庫研究部「イスラーム地域研究資料室」

・研究テーマ「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進と史資料学の開拓」  
・室長…三浦徹 ・機構研究員…徳原靖浩

## 現代中国地域研究



上海の街並み

### 早稲田大学アジア研究機構

「現代中国研究所」 ※現代中国地域研究幹事拠点

- ・研究テーマ「中国の発展の持続可能性」
- ・所長…天児慧 ・機構研究員…徐顕芬・弓野正宏

### 京都大学人文科学研究所「附属現代中国研究センター」

- ・研究テーマ「人文学の視角から見た現代中国の深層構造の分析」
- ・センター長…森時彦 ・機構研究員…袁広泉

### 慶應義塾大学東アジア研究所

「現代中国研究センター」

- ・研究テーマ「中国の政治的ガバナンス」
- ・センター長…国分良成 ・機構研究員…江藤名保子

### 東京大学社会科学研究所「現代中国研究拠点」

- ・研究テーマ「中国経済の成長と安定」
- ・運営委員長…田嶋俊雄 ・機構研究員…加島潤

### 人間文化研究機構総合地球環境学研究所

「中国環境問題研究拠点」

- ・研究テーマ「中国の社会開発と環境保全」
- ・拠点リーダー…窪田順平 ・機構研究員…松永光平

### 財団法人東洋文庫「現代中国研究資料室」

- ・研究テーマ「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」
- ・室長…高田幸男 ・機構研究員…大澤肇



中国龍の風

## 現代インド地域研究

### 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

「附属現代インド研究センター」 ※現代インド地域研究中心拠点

- ・研究テーマ「現代インドの生存基盤・社会・政治」
- ・センター長…田辺明生
- ・機構研究員…中溝和弥・石坂晋哉

### 東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター「現代インド研究部門」

- ・研究テーマ「現代インドの経済発展と環境変動」
- ・部門の長…水島司 ・機構研究員…和田一哉



タミル・ナードゥ州の牛使い(南インド)

### 広島大学「現代インド研究センター」

- ・研究テーマ「現代インドの空間構造と社会変動」
- ・センター長…岡橋秀典 ・機構研究員…宇根義己

### 人間文化研究機構国立民族学博物館

「現代インド研究拠点」

- ・研究テーマ「現代インドの文化と宗教の動態」
- ・拠点代表…三尾稔 ・機構研究員…宮本万里

### 東京外国語大学「現代インド研究センター」

- ・研究テーマ「現代インドにおける文学・社会運動・ジェンダー」
- ・センター長…粟屋利江 ・機構研究員…小西公大

### 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター

「現代インド研究センター」

- ・研究テーマ「現代政治に生きるインド思想の伝統」
- ・センター長…長崎暢子 ・機構研究員…上田知亮



ターリー (大皿料理)

# 人間文化にかかわる総合的研究推進

## VII 情報発信

### 講演会・シンポジウム

6機関では、それぞれの特色を生かした研究活動を展開し、その研究成果を研究者や一般の人に発信するため国際シンポジウムや講演会を開催しています。さらには、機構が中心となり人間文化研究の革新的なテーマを選び、一般の人にも高度な内容をわかりやすく伝えることを目的として公開講演会・シンポジウムを開催しています。

公開講演会・シンポジウムでは、おもに6機関の研究成果をテーマに開催していましたが、平成23年度は、機構が推進する事業である地域研究から、「イスラーム地域」の研究成果をテーマとして、イスラーム地域研究中心拠点である早稲田大学と協力するなど、新たな開催スタイルにも挑戦しています。

#### 人間文化研究機構

#### 第14回公開講演会・シンポジウム



「ことばの類型と多様性」(平成23年2月19日) 有楽町朝日ホール  
写真 戸田修太郎

ことばをテーマにした講演およびシンポジウムでは、世界の6,000の言語のうち、2,500もの言語が消滅の危機にあるという問題にふれるとともに、ことばに対するさまざまな切り口の幅広い専門的な研究の一端が披露されました。

「手話の多様性」についての講演もあり、全プログラムには手話通訳が入り、会場モニターに映し出され、最後は手話による盛大な拍手で幕を閉じました。

#### 人間文化研究機構

#### 第15回公開講演会・シンポジウム「中東の激動を考える」

平成23年7月2日

みやこめッセ(京都)



ポスター

#### 人間文化研究機構

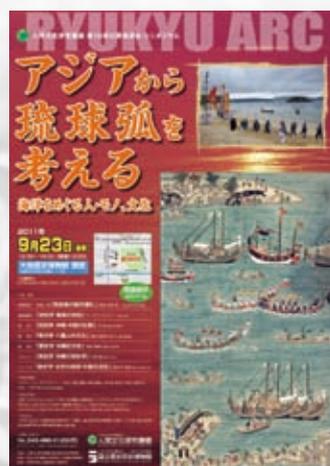
#### 第16回公開講演会・シンポジウム

「アジアから琉球弧を考える

—海洋をめぐる人・モノ、文化」

平成23年9月23日

大阪歴史博物館(大阪)



ポスター

#### 人間文化研究機構

#### 第17回公開講演会・シンポジウム

「遠い森林、近い森 — 関係性を問う(仮)」

平成23年10月7日

国立京都国際会館(京都)

## 知的財産

### 刊行物

#### 『HUMAN』

一般向けの研究情報誌、人文学総合誌『HUMAN—知の森へのいざない』が角川学芸出版の編集・発行によって刊行がはじまりました。人間文化研究機構が監修しています。第1号は、初代国立民族学博物館長「梅棹忠夫とは何者だったのか」、機構の主催する第12回公開講演会・シンポジウムの内容を編集した「『知の役割 知のおもしろさ』を考える」、捕鯨文化の国際シンポジウムにそった「クジラをめぐる諸問題」を特集しています。



『HUMAN』vol.1

P.34-P.35 特集2

#### 『人間文化』

公開講演会・シンポジウムの内容を掲載した広報誌『人間文化』は、平成16年(2004)の設立記念公開講演会・シンポジウムより刊行を開始し、現在ではvol.13まで号を重ねています。

これからは、紙媒体での刊行は終了し、新たな『人間文化』はウェブでの公開を予定しています。



vol.12  
「食:生物多様性と文化多様性の接点」



vol.13  
「ことばの類型と多様性」

研究活動によって生み出されたさまざまな成果は、社会の中で蓄積・活用されることによって新たな社会的資本を生み出し、結果として社会における知的財産を豊かにします。そのためにそれらは、成果を生み出した機構や研究者のもとにおいて、適正に保護された知的財産としてのあつかいを受け、積極的に公開し社会の利用に供するための措置を講じる必要があります。

そこで機構では、本部に知的財産管理室を設置して、研究過程で創出されたさまざまな知的財産を管理・運用し、社会に還元するための体制を整備してきています。

例えば、機構または各機関では研究支援に関する数多くのデータベースの構築を進めており、これらをインターネットなどを通じて広く公開しています。各機関が所蔵する資料や写真などの熟覧・貸与、著作物の使用許諾などに関しては、知的財産管理室を中心として対応しています。

また知的財産管理室では、各種セミナーなどを開催して、著作権法の改正などが行われた場合にはいち早く研究者の理解がおよぶための周知策も講じています。

#### 組み立て式加温殺虫装置(国立民族学博物館)



文化財などの保存のため、これまで行われてきた燻蒸(害虫駆除や殺菌のため気体の薬剤を浸透させること)について、汎用的に使用されてきた燻蒸剤が、オゾン層破壊物質として生産廃止になりました。これを受け、化学薬剤を用いない殺虫法の開発が進んできましたが、そのうちのひとつである、加温による殺虫法(高温処理)では、資料を専用の処理室へ移動しなければなりません。

そこで、移動困難な大型資料や大量資料をその場で殺虫処理するために、移動型加温殺虫装置および処理方法を考案しました。

# 研究活動アーカイブ

## 連携研究

### 平成22年度連携研究

#### 第2期中期目標期間

アジアにおける自然と文化の  
重層的関係の歴史的解明

(研究代表者:総合地球環境学研究所  
秋道智彌)

#### ●シンポジウムなど

- ・京都学園大学シンポジウム「妖怪文化と日本人のこころ」/日本児童教育専門学校(平成22年11月7日)
- ・シンポジウム「東洋美学と東洋の思惟を問う—植民地帝国下の葛藤するアジア像」/国際日本文化研究センター(平成22年11月8日~11日)
- ・ISAT 2010 "International Symposium on Accent and Tone" /国立国語研究所(平成22年12月19日~20日)
- ・「安心な出産のための奈良県アンケート報告会」/奈良市ならまちセンター(平成23年1月22日)
- ・古事記編纂1300年記念フォーラム「神々の舞い降りし島—自然と文化の再発見」/隠岐の島町 隠岐島文化会館(平成23年2月20日)
- ・「韓国国際学術セミナー—韓日方言研究の現況と未来」/慶北大学校人文大学(大韓民国、大邱市)共同開催 韓国(平成23年3月5日)

#### ●刊行物

- ・『人と自然』1号(平成23年3月)
- ・『妖怪学の基礎知識』(平成23年4月)
- ・『ラオスを知るための60章』(平成22年12月)

「人間文化資源」の総合的研究

(研究代表者:国立民族学博物館 田村克己)

#### ●シンポジウムなど

- ・国際シンポジウム「東アジア契約文書の諸相」/韓国学中央研究院(平成23年1月8日)
- ・国際シンポジウム「東南アジアにおけるゴングの映像民族誌」/国立民族学博物館(平成23年3月14日~15日)

#### ●刊行物

『9-19世紀文書資料の多角的複眼的比較研究』年次報告書2010年度』(平成23年3月)

### 平成21年度連携研究

#### 第1期中期目標期間

#### 日本とユーラシアの交流に関する総合的研究

ユーラシアと日本:交流と表象

(研究代表者:国立歴史民俗博物館  
久留島浩)

湿潤アジアにおける「人と水」の総合的研究

(研究代表者:総合地球環境学研究所  
秋道智彌)

文化の往還

(研究代表者:国文学研究資料館 谷川恵一)

#### 文化資源の高度活用

武士関係資料の総合化

—比較史及び異文化表象の素材として  
(研究代表者:国立歴史民俗博物館 小島道裕)

中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究

—高松宮家伝来禁裏本を中心として  
(研究代表者:国立歴史民俗博物館 吉岡真之)

「日本実業史博物館」資料の高度活用

(研究代表者:国文学研究資料館 青木睦)

GISを基盤とする考古・歴史民俗・環境情報  
の高度連携研究

(研究代表者:国際日本文化研究センター  
宇野隆夫)

東アジア近代史資料の再構築—旧「日中  
歴史研究センター」所蔵図書を利用して

(研究代表者:国際日本文化研究センター  
合庭淳)

アイヌ文化の図像表象に関する比較研究

—『夷酋列像図』とマンローコレクションの  
デジタルコンテンツ化の試み

(研究代表者:国立民族学博物館 佐々木史郎)

有形文化資源の共同利用を推進するための  
資料管理基盤形成

(研究代表者:国立民族学博物館 園田直子)

日本コロムビア外地録音の

ディスコグラフィック的研究

(研究代表者:国立民族学博物館 福岡正太)

## 連携展示

うたのちから—和歌の時代史

平成17年10月18日~11月27日

うたのちから—古今集・新古今集の世界

平成17年10月28日~11月18日

幻の博物館の「紙」

—日本実業史博物館旧蔵コレクション展

平成19年5月28日~6月15日

平成20年1月16日~2月11日

百鬼夜行の世界

平成21年7月18日~8月30日

水の器—手のひらから地球まで

平成22年3月25日~6月22日

チベット ポン教の神がみ

平成22年7月2日~9月10日

アジアの境界を越えて

平成22年7月13日~9月12日

平成22年10月14日~12月7日

#### 子どもたちがつくる国連環境ポスター展

子どもたちが感じた生物多様性2010

平成22年10月10日

名古屋大学豊田講堂

平成22年10月23日~29日

COP10生物多様性交流フェア

平成22年11月20日

奈良県河合町立文化ホール(まほろばホール)

平成22年12月14日~15日

石川県政記念しいのき迎賓館

平成22年12月16日~18日

ANAクラウンプラザホテル金沢

平成22年12月19日

石川県立音楽堂

平成23年1月16日

ボストンチルドレンズミュージアム/米  
国マサチューセッツ州

## 研究資源の共有化

#### 人間文化研究情報資源共有化研究会

第1回 平成21年5月29日

国文学研究資料館 機構会議室

テーマ:人間文化研究における研究情報資源共有化の展開と展望

第2回 平成21年7月16日

国文学研究資料館 機構会議室

テーマ:諸機関・諸プロジェクトにおける研究資源情報化と相互連携の可能性—I

第3回 平成22年1月29日

総合地球環境学研究所 講演室

テーマ:諸機関・諸プロジェクトにおける研究資源情報化と相互連携の可能性—II

第4回 平成22年9月10日

国立国語研究所 講堂

テーマ:人文系諸分野における研究情報資源の公開と連携

「国立公文書館デジタルアーカイブのご紹介」(国立公文書館:八日市谷哲生)、「博物館資源の情報化の現状と連携を図る上での諸問題」(東京国立博物館:田良島哲)、「世界をリードする学術知の循環基盤の構築に向けて—データ中心人間・社会科学からのアプローチ」(国立情報学研究所:曾根原登)、「現代日本語コーパスにおける文字処理」(国立国語研究所:高田智和)、「時空間情報の利用と展開」(総合地球環境学研究所:関野樹他)、「国会図書館PORTAと人間文化研究機構統合検索システムとの連携について」(国立民族学博物館:山本泰則)

第5回 平成23年1月28日

国立民族学博物館 第5セミナー室

テーマ:人間文化研究情報資源と知識ベース  
「歴史知識学の新展開」(東京大学大学院工学系研究科:赤石美奈)、「データを支えるデータ—人間文化研究における知識ベースの構築の試みについて」(国文学研究資料館:相田満)、「歴史知識学の方法と知識ベース—東京大学史料編纂所での経験から」(東京大学史料編纂所:保立道久)、「古事類苑の編纂」(神宮司庁文教部神宮文庫:黒川典雄)、「古事類苑地部の編纂過程と構成の特性」(国際日本文化研究センター:中西和子)

### 刊行物

『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集』1、平成22年3月。第1回～第3回の研究会の報告を収録

『人間文化研究情報資源共有化研究会報告集』2、平成23年3月。第4回・第5回の研究会の報告を収録

『研究資源共有化システムニュースレター』第1号、平成22年10月

「研究資源共有化システムニュースレターの刊行」、「統合検索システムとPORTAとの連携」(国立歴史民俗博物館:安達文夫)、「研究資源共有化事業における時空間研究開発」(総合地球環境学研究所:関野樹)、「統合検索システム利用経験談1」(人間文化研究機構:石上英一)

『研究資源共有化システムニュースレター』第2号、平成23年3月

「巻頭言 ショカン」(国文学研究資料館名誉教授:安永尚志)、「統合検索システムのデータベースの紹介」(人間文化研究機構:石上英一)、「『中華教育界記事目録』データベースの構築—現代中国地域研究から見たデータベース」(人間文化研究機構地域研究推進センター・(財)東洋文庫:大澤肇)

※『研究資源共有化システムニュースレター』は、機構ホームページでPDF版を公開

## 知的財産

人間文化研究機構知的財産セミナー

平成21年度までに実施したセミナー

第1回 「著作権をはじめとするさまざまな知的財産関係の具体的事例、疑問等に関する質疑応答」

第2回 「情報共有化時代の著作権」

第3回 「文化資料の利用と著作権」

第4回 「知的財産に関する基礎知識」

第5回 「写真・映像による研究成果公開と著作権・肖像権」

第6回 「写真・映像による研究成果公開と著作権・肖像権」

第7回 「展示による研究成果公開と著作権・肖像権」

### 平成22年度に実施したセミナー

第8回 「展示による研究成果公開と著作権・肖像権」

日時 平成22年12月1日

場所 国立民族学博物館 第5セミナー室

講師 不二法律特許事務所弁護士 吉澤敬夫  
人文科学の研究の成果を展示によって公開しようとする場合、著作権や肖像権に関する配慮が求められる。印刷物や展示でのパネルへの掲載、データベースによる公開などにおいて、著作権や肖像権について、どのように留意すべきかなどについて解説。

## 講演会・シンポジウム

人間文化研究機構公開講演会・シンポジウム

設立記念

「今なぜ、人間文化か」

平成16年9月25日

一橋記念講堂

第2回

「歩く人文学—人文学と社会の新しい関係」

平成17年6月25日

大阪国際会議場

第3回

「人が創った植物たち」

平成17年10月6日

有楽町朝日ホール

第4回

「人はなぜ花を愛でるのか？」

平成18年5月27日

国立京都国際会館

第5回

「人は、どんな手紙を書いたか—近代日本とコミュニケーション」

平成18年9月30日

一橋記念講堂

第6回

「世界に広がる日本のポップカルチャー—マンガ・アニメを中心として」

平成19年6月2日

有楽町朝日ホール

第7回

「国際開発協力へのまなざし—実践とフィールドワーク」

平成19年11月30日

IMPホール

第8回

「新しい近世史像を求めて」

平成20年6月8日

東商ホール

第9回

「源氏物語の魅力」

平成20年10月13日

有楽町朝日ホール

第10回

「百鬼夜行の世界」

平成21年7月11日

有楽町朝日ホール

第11回

「ウチから見た日本語、ソトから見た日本語」

平成21年12月5日

有楽町朝日ホール

第12回

「知の役割 知のおもしろさ—人間文化研究のめざす道を考える」

平成22年7月9日

有楽町朝日ホール

第13回

「食:生物多様性と文化多様性の接点」

平成22年7月16日

有楽町朝日ホール

第14回

「ことばの種類と多様性」

平成23年2月19日

有楽町朝日ホール



第14回公開講演会・シンポジウム  
「ことばの種類と多様性」ちらし



各機関の活動

# 国立歴史民俗博物館

NATIONAL MUSEUM OF JAPANESE HISTORY



国立歴史民俗博物館

## 概要

国立歴史民俗博物館(歴博)は、歴史・考古・民俗および情報資料の4研究系による学際的・総合的な協業に基づく研究を進めてきました。歴博は学術資料・情報の収集、整理、保存、調査研究そして提供という一連の機能を有することを最大の特色としています。そこで、博物館という形態を活かした新しい研究スタイル「博物館型研究統合」を提唱しました。「博物館型研究統合」とは、〈資源〉〈研究〉〈展示〉という3つの要素を有機的に連鎖させ、さらにそれらの要素を国内外の人々と幅広く〈共有・公開〉することによって、博物館という形態を最大限に活かした研究を推進することです。

また、歴博の大学共同利用機関としての重要な役割は、歴史資料・情報の収集、整理、保存、調査研究そして提供(展示・出版、情報データベースなど)という一連の機能を、国内外の研究者が存分に共同利用できるようにすることにあり、あわせて研究活動を通じて次代を担う研究者を育成することです。

展示に関しては、開館以降の研究成果や急激に変化する現代社会の要請に応えるため、平成16年度に総合展示リニューアル基本計画を策定しました。そして、この基本計画に基づいて、歴博内外の研究者で構成したりリニューアル委員会による研究・討議を経て、平成20年3月に第3展示室(近世)、平成22年3月に第6展示室(現代)をオープンしたところです。また、現在、平成25年3月の第4展示室(民俗)新構築に向けて準備をしています。

## 研究

歴博では、国内外の大学、研究所などのさまざまな研究分野の研究者が共通の研究課題のもとに研究プロジェクトを組織し、共同研究(基幹研究・基盤研究・開発型共同研究)、資料調査研究プロジェクトおよび展示プロジェクトを実施しています。基幹研究は、大きな研究課題のもとに学際的研究をめざす課題を設定したものであり、基盤研究は、収蔵資料の高度情報化や、新しい歴史研究の方法論的基盤を作るための課題を設定しています。この2つを「共同研究」の核とし、開発型共同研究では、新規課題の発掘と人材育成に取り組むこととしています。それぞれの平成23年度における研究テーマは次のとおりです。

### 共同研究

#### 基幹研究

- 民俗表象の形成に関する総合的研究
- 新しい古代像樹立のための総合的研究

#### 基盤研究

- 多元的フィールド解析研究
- 歴史資源開発研究
- 先端博物館構築研究
- 展示型共同研究
- 公募型共同研究

#### 開発型共同研究

- 縄文時代の人と植物の関係史
- 人の移動とその動態に関する民俗学的研究

### 資料調査研究プロジェクト

所蔵資料を中心とした歴史・考古・民俗資料の調査研究において、「考古関係先史遺物資料」など3件のプロジェクトを実施。

### 展示プロジェクト

総合展示、企画展示、特集展示などの展示構築のため、企画展示「紅板締め—江戸から明治のランジェリー—」など10件の展示プロジェクトを実施。



赤外線サーモグラフィによる日本刀製作工程の調査

## 共同利用

### 資料収集

歴博では、実物資料・複製資料・音響映像資料およびこれに関連する資料を計画的・継続的に収集しており、平成23年5月現在、226,586点（うち国宝5点、重要文化財85点、重要美術品27点）を収蔵しています。また、蔵書冊数は308,731冊です。

### 情報提供

#### 研究報告書の刊行

共同研究などの成果は『国立歴史民俗博物館研究報告』として刊行するとともに、研究情報を網羅した『国立歴史民俗博物館年報』、さらに歴史系総合誌『歴博』、展示図録、資料目録などを刊行しています。

#### データベースの公開

収蔵資料を広く公開し、研究利用に資することを目的とした館蔵資料データベースと諸分野の文献



共同研究風景

目録や共同研究の成果を収録したデータベース、記録類の全文データベース（平成23年5月現在47本）を提供しています。

平成22年度は、基盤研究「縄文・弥生集落遺跡の集成的研究」において収集した報告書抄録データを収録した縄文・弥生集落遺跡データベース作成と文化財ごとに色味や色材の推定構造などの文献調査を行い、データベース化した文化財材料知識データベースの公開を行っています。

## 展示

### 総合展示

歴博の総合展示（常設）は、日本の歴史と文化の流れを現在から見て重要なテーマを選び、民衆の生活史に重点を置いて構成したものです。6つの展示室に分かれていて、第1展示室から第3展示室では、原始・古代から中世を経て近世に至る歴史を時代順に配置し、現在、新構築工事のため閉室している第4展示室では民俗世界を、第5展示室では近代を、そして第6展示室では現代を展示しています。プロログコーナーも昨年11月にリニューアルしました。今年度は第2展示室で重要文化財「洛中洛外図屏風甲本」を特別公開するほか、第3展示室の特集展示『『もの』からみる近世』において京都大学総合博物館との共催展示「マリア十五玄義図の探究」などを開催します。

#### 「妖怪変化の時空」

平成23年8月2日～9月4日

#### 「マリア十五玄義図の探究」

平成23年11月1日～11月27日

#### 「たつ年の龍」

平成23年12月20日～平成24年1月29日

#### 「和宮ゆかりの雛かざり」

平成24年2月7日～4月1日



総合展示 第3展示室特集展示「紀州徳川家伝来の楽器—琵琶—」



企画展示「武士とはなにか」



総合展示 プロローグ

### 企画展示

共同研究プロジェクトおよび資料収集の成果を公開するために年に数回の企画展示を行います。平成23年度は次のとおり3回の展覧会を開催します。

「紅板締め—江戸から明治のランジェリー—」

平成23年7月26日～9月4日

「風景の記録—写真資料を考える—」

平成23年11月8日～平成24年1月15日

### 人間文化研究機構 連携展示

「都市を描く—京都と江戸」

第1部「洛中洛外図屏風と風俗画」

平成24年3月27日～5月6日

### くらしの植物苑

平成7年に開設した「くらしの植物苑」では、生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽し「食べる」「織る・漉く」「染める」「治す」「道具をつくる」「塗る・燃やす」のテーマで、植物を通じてくらしの歴史を展示しています。また、特別企画「季節の伝統植物」として伝統的に栽培された園芸植物などに関する展覧会を、今年度は次のとおり4回開催します。毎月1回は観察会を開催しています。

「伝統の桜草」

平成23年4月19日～5月8日

「伝統の朝顔」

平成23年8月2日～9月4日

「伝統の古典菊」

平成23年11月1日～11月27日

「冬の華・サザンカ」

平成23年11月29日～平成24年1月29日



くらしの植物苑特別企画「伝統の桜草」

## 社会連携

歴博では共同研究などの成果を展示という形だけでなく、さまざまな普及活動を通じて社会に還元しています。

### 歴博フォーラム・講演会の開催

研究成果を広く一般に公開するための「歴博フォーラム」と「歴博講演会」を開催しています。

### 子ども向け教育普及事業の実施

歴博の展示や研究活動を家族向けにわかりやすく解説したり、バックヤードの見学を主とした「歴博探検」や設問にしたがって資料を観察しながら展示室をめぐる「れきはくこどもワークシート」など、子ども向けの教育普及活動を実施しています。



歴博探検「昭和の子ども」

### 専門職員研修事業などの実施

平成5年度から、歴史民俗系博物館資料館の活動の充実に資するため、文化庁と共催で全国の博物館・資料館の専門職員を対象に「歴史民俗資料館等専門職員研修会」を開催しています。

### 歴博の紹介

全国生涯学習フェスティバルなどにおいて歴博紹介を積極的に実施しています。

## 研究交流

国内外の大学・研究機関・博物館と学術交流を図るため、平成22年度までに10件の交流協定を締結しています。



歴博映像フォーラム「平成の酒造り」

## 大学院教育

平成11年度から総合研究大学院大学の文化科学研究科(日本歴史研究専攻)が設置されています。個別授業・基礎演習・集中講義の3つの形態の授業を行い、博士論文の作成指導と研究者としての能力の育成を図り、歴史学・民俗学・考古学・分析科学などの多分野にわたる研究者による複数教員の指導と歴博に所蔵されている実物資料の活用などをとおし、広い視野を持った創造性豊かな研究者の育成を行っています。

また、大学院教育の一環として、特別共同利用研究員制度を平成9年度から設けており、大学の要請に応じ歴史学・考古学・民俗学およびそれに関連する分野を専攻する大学院学生を受け入れ、必要な指導を行っています。



# 国文学研究資料館

NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE



国文学研究資料館

## 概要

国文学研究資料館(国文研)は、文献資料の調査研究、収集、整理および保存などを目的として設置されました。以来、大学などの研究者の協力を得ながら、国内外に所在する日本文学およびその周辺の資料について調査し、マイクロフィルムなどによる収集を行い、保存に努めています。また、集積した資料や情報は、閲覧、複写サービス、インターネットなどによるサービスを通じ、広く研究者および一般利用者に提供しています。

同時に、調査、収集した膨大な書誌情報を活用し、文学研究を基礎、総合および応用にわたって体系的、総合的に展開させるべく多面的な共同研究として基幹研究、特定研究、国際連携研究を企画し、実施しています。それらは、大学などの研究者と連携するとともに海外の研究機関、また研究者との交流にも積極的に取り組んでいます。

その他、展示、講演会、ワークショップなどを通じて、日本文学およびその周辺の文化資源の活用を図り、社会との連携を推進しています。

平成20年3月に品川区から立川市に移転し、拡充した閲覧室や展示室などを活用して、大学共同利用機関としてより充実した活動を展開しています。

## 研究

国文研では外部委員が参加した共同研究委員会を設置し、資料の調査研究と国内外の諸機関との研究交流に基づき、日本文学などの基礎研究と国際研究の新たな研究の進展を図るため、以下の共同研究を行っています。

### 基幹研究

文献資料に関する基礎研究を進展させる共同研究で、以下の2研究課題を実施しています。

- 近世地域アーカイブズの構造と特質
- 近世における蔵書形成と文芸享受



近世地域アーカイブズの構造と特質 公開研究会(平成22年)

### 特定研究

重要課題に取り組む共同研究で、以下の7研究課題を実施しています。

- 在米絵入り本の総合研究
- 近世的表現様式と知の越境
  - 文学・芸能・絵画による総合研究
- 陽明文庫における歌合資料の総合的研究
- 久世家文書の総合的研究
- 藤原道長の総合的研究
  - 王朝文化の展開を見据えて
- 大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究
- 日本における宋版の伝来と受容についての研究



鈴木春信画『中納言家持』  
国文学研究資料館蔵

## 国際連携研究

海外の研究者と連携して行う共同研究で、以下の課題を行います。

- オランダ国ライデンを中心とするシーボルト関係  
日本書籍資料の調査研究



ライデン国立民族学博物館

## 共同利用

国内外に所蔵されている日本文学および関連資料の専門的な調査研究と、撮影および原本による収集を行い、得られた所在・書誌を整理・保存し、さまざまな方法で国内外の利用者に供することで、日本文学および関連分野の研究基盤を整備しています。

## 調査収集

全国の大学などに所属する研究者約180名の調査員と緊密に連携し、日本文学および関連する原典資料(写本・版本など)の所蔵箇所に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

こういった調査研究に基づき、撮影許可が得られた原典資料を、マイクロネガフィルムまたはデジタル画像として全冊撮影することによって収集しています。

さらに、平成17年度から、他大学・他機関と締結した協定に基づく連携調査を行っています。

## 資料利用

国文学研究資料館の図書館で閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写などのサービスが利用でき、電話で所蔵調査および文書での質問について受付けています。大学などに所属されていない方は、直接郵送またはFAXにより複写申込みすることもできます。



図書館

## 公開データベース

「国文学論文目録データベース」「日本古典籍総合目録データベース」を始め、研究者にとって不可欠なツールである計26のデータベースによる学術情報の提供を行っています。

## 社会連携

国文研では展示、講演、シンポジウム、セミナーなどの各種イベントを通じて、研究成果を広く社会に還元しています。

### 展示

国文研で行っている共同研究の成果などを公開するため、年5回程度、展示を開催しています。



展示室

### 研究展示

「近世の和歌御会二〇〇年  
—久世家文書にみる公家の文事」

平成23年5月23日～6月24日

特定研究「久世家文書の総合的研究」による研究成果の一部として、国文研蔵および龍谷大学日下幸男研究室蔵の古文書・典籍を中心とした近世公家社会と文学(主として和歌)についての展示を行いました。



研究展示「近世の和歌御会二〇〇年—久世家文書にみる公家の文事」

### 特別展示

「近衛家陽明文庫 王朝和歌文化一千年の伝承」

平成23年10月8日～12月4日

特定研究「陽明文庫における歌合資料の総合的研究」の研究成果として、財団法人陽明文庫が所蔵するさまざまな資料を展示します。

### 人間文化研究機構 連携展示

「都市を描く—京都と江戸」

第II部「江戸名所と風俗画」

平成24年3月27日～5月6日

人間文化研究機構連携研究「中近世の都市を描く絵画と地誌に関する研究—京都と江戸」の成果などをふまえ、江戸をみる視点の発展や変化を江戸誕生以前から近代まで辿ろうとする展示を行います。

なお、本展示は国立歴史民俗博物館との連携展示の一部であり、所蔵資料を相互に提供しつつ、国文研側が江戸、歴博側が京都を対象とした展示「洛中洛外 図屏風と風俗画」を行うことで、さらに総合的に描かれた都市の世界を提示することをめざしています。

### 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しており、平成23年度は11月26日、27日に「〈場所〉の記憶—テキストと空間」というテーマで開催します。

### 連続講演

日本文学の普及を図るため、古典文学の中で主要な作品やテーマを選び、第一線で活躍している研究者による連続的な講演会を開催しています。

平成23年度は名和修氏(陽明文庫長)を講師として開催する予定です。



平成22年度連続講演 中野三敏氏(九州大学名誉教授)

### 日本古典籍講習会

国内外で日本の古典籍をあつかっている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取りあつかいなどに関する講習会を開催します。講師は国文研教員および司書ならびに国立国会図書館司書などで、平成24年1月に開催します。

### アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービスなどの業務を担う専門職員(いわゆるアーキビスト)の研修、養成のため、長期コースと短期コースを開催します。講師は国文研教員などで、長期コースは7月～9月の間の計8週間、国文研で開催し、平成23年度の短期コースは小樽商科大学、小樽市立小樽文学館において11月7日～18日に開催を予定しています。



平成22年度アーカイブズ・カレッジ長期コース

### サテライト講座

都心の会場で、国文研の教員が一般の人を対象として日本文学、および関連分野に関する講座を開催しています。毎回テーマを決めて、国文研の研究成果を分かりやすくお話しします。

平成23年度は中世・近世の芸能をテーマに開催する予定です。

### 子ども見学デー

子どもたちに日本の古い文化や本に親しんでもらうため、国文研が所在する立川市近隣の小学生を対象とし、文学に関するお話とカルタ取り大会などを内容として開催しています。



平成22年度子ども見学デー

### 大学院教育

国文研には、総合研究大学院大学の文化科学研究科(日本文学研究専攻)が設置されています。総合研究大学院大学は、大学共同利用機関の人材と研究環境を基盤として、教育・研究を行っています。日本文学研究専攻では、従来の日本文学研究を、文化科学的視点から総合的に捉え直す立場に立って、多面的な指導をしています。

また、特別共同利用研究員制度により、大学の要請に応じ大学院学生を受け入れ、研究指導に協力しています。



# 国立国語研究所

NATIONAL INSTITUTE FOR JAPANESE LANGUAGE AND LINGUISTICS



国立国語研究所

## 概要

国立国語研究所(国語研)は、日本語学・言語学・日本語教育研究の中核拠点として、言葉の研究をとおりして人間文化に関する理解と洞察を深め、国語および国民の言語生活ならびに外国人に対する日本語教育に貢献することを目的としています。日本語を世界諸言語のひとつと位置づけ、国内外の大学・研究機関と大規模な理論的・実証的共同研究を展開することによって日本語の特質の全貌を解明しています。また、共同研究の成果や関連する研究文献情報を広く社会に発信・提供し、自然言語処理などさまざまな応用面に寄与することも重要な使命としています。

国語研は、4つの研究系と3つのセンターから成り立っています。言語の基本的な性質をあつかう「理論・構造研究系」、地理的・社会的変異および歴史的变化を研究する「時空間変異研究系」、コーパス(言語資料を、その言語の実態を正確に反映するように組織的かつ大量に収集してコンピュータで検索できるようにしたもの)の構築・活用に関する基礎的研究を行う「言語資源研究系」、諸外国語との比較・対照を行う「言語対照研究系」の4研究系と、研究成果や研究文献情報の発信を行う「研究情報資料センター」、言語資源研究系の研究をふまえてコーパスの開発を行う「コーパス開発センター」、日本語教育研究を行う「日本語教育研究・情報センター」の3センターです。これらが有機的に連携しながら研究活動と社会貢献活動を推進しています。



## 研究

国語研では、国内外の諸大学・研究機関と連携して、個別の大学ではできないような研究プロジェクトを全国的・国際的規模で展開しています。それらの土台となるのは「世界諸言語から見た日本語の総合的研究」という国語研全体の研究目標です。この目標の達成に向けて、各研究系・センターで研究テーマを定め、数々の共同研究プロジェクトを実施しています。

共同研究プロジェクトには、次の種類があります。

**基幹型**: 国語研における研究活動の幹となる大規模なプロジェクト。

**領域指定型**: 研究系およびセンターが指定した特定のテーマをあつかうプロジェクトで、一般公募の外部研究者をリーダーとする。

**独創・発展型**: 独創性に富む斬新な研究課題をあつかう中・小規模のプロジェクト。

**萌芽・発掘型**: 必ずしも研究系にとらわれない、将来的に新しい研究領域の創成が期待されるプロジェクト。

## 理論・構造研究系

理論・構造研究系では、「日本語レキシコンの総合的解明」を研究テーマとし、現代日本語の文法・統語、音声・音韻、語彙・形態、意味・語用・談話、文字・表記にかかわる理論的・実証的・実験的研究を行っています。

日本語の特質を解明するためには、言語理論をふまえた通言語的研究が必要です。この研究系では言語の脳科学や言語獲得・習得研究も視野に入れて、総

合的な現代日本語の研究をめざしています。

現在は、レキシコン(語彙、単語)をキーワードとして、レキシコンの音韻特性、語形成の文法的・意味的・形態的特性、文字環境のモデル化、連濁事典の編纂などの共同研究を行っています。

### 時空間変異研究系

時空間変異研究系は、「日本語の地理的・社会的変異および歴史的变化」を研究テーマとし、方言の全国調査、奄美・沖縄方言、八丈方言などの消滅危機方言の調査、現代日本語の動態の解明、日本語変種の形成過程の解明といった共同研究に取り組んでいます。

### 言語資源研究系

科学の両輪はデータと理論です。正しい理論を見出すためには歪みのないデータが必要とされ、価値の高いデータを作るためにはデータの解釈についての理論的な見通しが必要です。言語資源の構築と活用に関する基礎研究を行う言語資源研究系では、「現代語および歴史コーパスの構築と応用」を研究テーマとして従来の書き言葉均衡コーパスを発展させるためにコーパスのアノテーション(研究用情報付与)

に関する基礎研究を行うとともに、新たな課題として、過去の日本語を対象とした通時コーパスの設計と、コーパスを用いた新しい日本語学の方法論の創成のための共同研究を実施しています。

### 言語対照研究系

言語対照研究系では、「世界諸言語との対照による日本語の言語類型論的特質の解明」を研究テーマとしています。北米、中米、大洋州、アジア、アフリカ、ヨーロッパの40近くの言語を研究しています。

貿易の世界だけでなく、学問の世界にも、輸入と輸出があると思います。言語対照研究系では、日本語の研究から出発して言語学一般に貢献したい、すなわち、日本の言語学を世界に輸出したいと思っています。

### 日本語教育研究・情報センター

「多文化共生社会における日本語教育研究」を研究テーマとして、第二言語(外国語)としての日本語の教育・学習をとりまくさまざまな今日的課題に対して、国内外の日本語教育に関する研究情報を収集するとともに、学習者の日本語コミュニケーションに関する実証的研究を行い、それらの成果を社会に発信・還元します。



『方言文法全国地図』

## 共同利用

### 研究情報資料センター

国内外の研究者の共同利用に供するため、研究情報資料センターが中心となって、以下のような事業を進めています。

1. 研究図書室の運営・管理
2. データベースの構築(ウェブで公開)
  - (1) 日本語研究・日本語教育文献データベース
  - (2) 日本語学習者会話データベース
3. 研究所の刊行物(ウェブや冊子で刊行)
  - (1) 国語研プロジェクトレビュー
  - (2) NINJALフォーラムシリーズ
  - (3) 国立国語研究所論集
  - (4) 国立国語研究所共同研究報告
4. 設立以来蓄積されてきた資料群の整備・保管
5. 国語研が約60年間にわたって経年的に実施してきた言語の定点調査で蓄積された大量データの整理と学術的分析(愛知県岡崎市での敬語調査、山形県鶴岡市での共通語化調査など)
6. 質問・相談・見学への対応

### コーパス開発センター

コーパス開発センターでは、各種言語資源の開発を進めています。現在開発中の言語資源には、独立行政法人時代のKOTONOHA計画を継承した以下のものがあり、いずれも2011年度の公開を予定しています。

#### 【現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)】

日本語に関する初の均衡コーパス(1億語)

#### 【UniDic】

日本語音声言語処理用電子化辞書(20万語)

また、すでに構築を完了して公開している言語資源には以下のものがあります。

#### 【日本語話し言葉コーパス(CSJ)】

日本語の大規模自発音声コーパス(750万語)

#### 【太陽コーパス】

言文一致完成期の雑誌コーパス(700万語)

#### 【分類語彙表】

日本語の代表的シソーラス(9.6万語)

さらに今後は過去の日本語を対象とした通時コーパスの構築を本格化させていきます。



### 研究図書室

日本語研究および日本語に関する研究文献・言語資料を中心に、日本語教育・言語学など、関連分野の文献・資料を収集・所蔵しています。全国で唯一の日本語に関する専門図書室で、ウェブからの蔵書検索もできます。<http://libgw.ninjal.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do>

## 社会連携

### 特色ある研究を通じた社会とのつながり

学術研究の成果は専門家の枠を越えて広く一般社会のさまざまな方面で利用・応用されるべきであると考えています。ここでは、特に緊急性と社会性が大きい3つの共同研究を紹介します。

#### 消滅危機方言の調査・保存・分析

ユネスコが発表した世界各地の消滅危機言語に関するレッドブックには、日本国内の8つの言語(方言)が含まれています。これらの諸言語(方言)を記録・保存し、言語学的に分析することは我が国



方言の聞き取り調査

の言語文化を守るための最大の関心事のひとつです。本共同研究は、世界規模で展開されている危機言語研究に貢献するとともに、それら諸方言が用いられる地域社会の活性化にも寄与しています。

### 日本語コーパスの拡充

欧米と比して遅れを取っていた大規模な現代日本語コーパスの構築を推進し、同時に、オックスフォード大学とも連携しながら古代語を含む史的コーパスの設計に着手しています。これにより、コーパス日本語学を世界レベルに引き上げるとともに、「コトバ」という大切な資源を言語研究者のみならず多方面で利用できるような形で提供します。

### 多文化共生社会での日本語教育

近年、在日外国人や留学生の増加にともなって日本語学習に対するニーズが多様化し、そのため、日本語教育の内容や方法にも多様なアプローチが求められています。第二言語(外国語)としての日本語のコミュニケーション能力の教育・習得に関する実証的研究を広範に行うことによって、我が国における日本語教育・日本語学習の内容と方法の改善や、異文化摩擦などの社会的問題の解決に資する成果を提供します。

## NINJALプログラム

国語研では、優れた研究内容を社会に発信し、貢献するために、各種プログラムを実施します。

### 専門家向け企画

#### NINJAL国際シンポジウム

優れた研究成果を、海外からの専門家も交えて、議論を深めながら学界に公表します。

#### NINJALコロキウム

国内外の優れた研究者を講師に招き、日本語・言語学・日本語教育のさまざまな分野について最前線の研究成果を話していただく講演会です。

### 若手研究者(大学院生含む)向け企画

#### NINJALチュートリアル

日本語学・言語学・日本語教育研究の諸分野における最新の研究成果や研究方法を若手研究者などに教授することにより、次代の研究者育成を支援することを目的としています。

### 一般向け企画

#### NINJALフォーラム

国語研の研究成果を広く一般の人に知ってもらうとともに、社会との連携を積極的に推進します。



NINJALフォーラム

#### NINJAL職業発見プログラム(中・高校生向け)

言語や日本語あるいは日本語教育を研究することを通じて、学問の楽しさやすばらしさを知ってもらうためのプログラムです。小学生向けの「NINJALジュニアプログラム」も実施します。



NINJAL職業発見プログラム

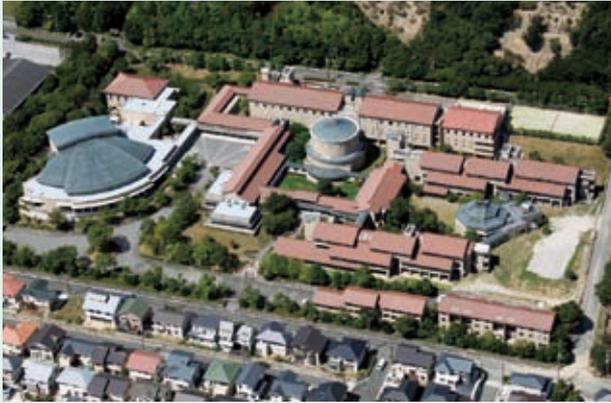
## 大学院教育

平成17年度から、一橋大学との連携大学院プログラムを実施しています。この連携大学院(日本語教育学位取得プログラム)は、日本人および滞日留学生を対象としたもので、日本語教育学、日本語学、日本文化に関する専門的な知識を備えた研究者や日本語教育者を育成することをめざしています。



# 国際日本文化 研究センター

INTERNATIONAL RESEARCH CENTER FOR JAPANESE STUDIES



国際日本文化研究センター

## 概要

国際日本文化研究センター（日文研）は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として設置されました。以来、日本文化の独自性の研究のみならず、諸外国との文化比較や文化交流の視点をも重視し、国内外から参加するさまざまな専門領域の共同研究員による分野横断的な、日本文化に関する多様な研究を展開しています。

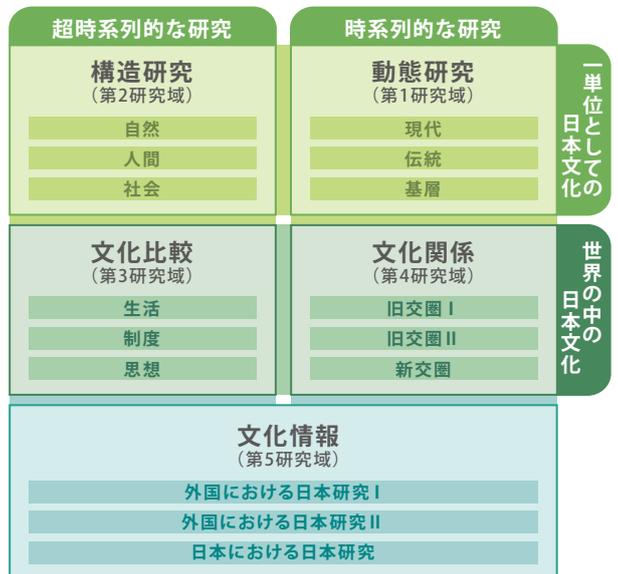
研究部門制を採用していない日文研では、共同研究を研究域・研究軸という枠組みのもとに位置づけ、特定の分野に偏らない、バランスのとれた共同研究を推進しています。その研究成果は、和文・英文による図書・学術雑誌、講演会、シンポジウムなどさまざまな形で、国内のみならず広く海外に提供しています。

研究協力としては、世界各地の日本文化の研究者・研究機関に、研究情報を発信するとともに、地域の実情に応じて日文研のスタッフを派遣して研究会を開催するなど、多面的な研究協力活動を行っています。

また、総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻・博士後期課程では、次代の日本研究者養成を行っています。本専攻では、留学生も受け入れています。

## 研究

日文研における研究活動は、個人研究と共同研究を中心に行われています。このうち共同研究は、研究域・研究軸という枠組みのもとに行われています。この枠組みの原則は、日本文化の全体像を把握するための視座としてまず研究域を設け、次にその研究域を分節し、それぞれの研究域にいくつかの方向を特定するものとして研究軸を設ける、という形をとっています。



## 共同研究

日文研がもっとも力を入れているのは、共同研究方式の日本文化の研究です。日本文化を研究するためには、関係する個別専門分野ごとの成果が着実に積み重ねられなければなりません。あわせて専門分野の枠組みを越えて、研究者が相互に知見を高め合う場が必要になります。こうした共同研究の場は、総体として日本文化理解の促進に大きな役割を果たすものと期待されます。また、共同研究では、日本と異なる知的伝統に立つ海外の研究者との交流をも重視しています。さらに、国際化時代といわれる今日、日本文化研究の多角的な国際化を図ることで、時代の要請に応えようとするものです。

このように、日文研における共同研究は、単なる研究成果の交流にとどまらず、専門分野および知的伝

統を異にする研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる創造性に基づく成果をめざしています。

平成22年度は、「近代日本の公と私、官と民—比較の視点から—」ほか8つの共同研究が最終年度を迎え、終了しました。

平成23年度は、16の課題による共同研究を行っています。



共同研究報告書

## 研究協力

日文研では、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究を行い、世界に開かれた国際的なセンターとしての責務を果たすため、諸外国から外国人研究者を受け入れています(平成23年5月1日現在、累計世界43か国531名)。これら外国人研究者と日文研の教員や国内研究員との親密な学問的交流は、世界の日本研究促進の基盤となっています。

また日文研では、日本研究を行っている研究者を対象に研究協力活動を展開しています。この活動は、個々の研究者の研究交流を目的とする国際研究協力と、日文研が蓄積してきた研究情報の提供に大別することができます。

具体的には、研究会形式の研究交流を行う場の提供や、個人的な研究上の協力として研究相談などを実施しています。

### 国内開催の研究会

- 「日文研フォーラム」は、来日中の外国人研究者による研究発表と交流の場の提供を目的に、毎月開

催しています。テーマは日本文化に関連したもので1回で完結する形をとっています。この研究会は一般にも公開しています。

- 「セミナー」「レクチャー」「シンポジウム」は、日文研の教員が専門領域のテーマを設定して開催するもの、および来日中の外国人研究者と日文研の教員が共同・協力して学際的なテーマを設定して開催するものがあり、研究者との交流をも目的としています。
- Nichibunken Evening Seminarは、外国人研究者の研究発表と国際交流を兼ねた英語によるセミナーです。

### 海外シンポジウム

平成7年度から海外においても研究活動・研究協力活動を行うため、年1回海外シンポジウムを実施しています。

平成22年度は、インドネシア大学(インドネシア・ジャカルタ)において「日本の文化と社会の潮流」を実施しました。また、平成23年度は復旦大学(中華人民共和国)において「江南文化と日本—資料・人的交流の再発掘—」を実施しました。



海外シンポジウム「日本の文化と社会の潮流」(インドネシア)

### 海外における日本研究会

平成11年度から、教員を年数回海外に派遣し、訪問した地域の日本研究者と協力して、現地の研究動向に即したテーマで小規模な研究会を開催しています。あわせて、研究相談などの支援業務を行っています。この研究会は、日文研の設置目的である国際研究協力活動をより積極的かつ効果的に行うことをめざしています。開催地の優秀な若手研究者の発掘

につながることに加え、海外の日本研究の生の情報を得る貴重な機会にもなっています。

平成22年度は、中央研究院(台湾)にて開催しました。平成23年度はエストニアで行う予定です。

### 海外研究交流シンポジウム

平成18年度から、海外の日本研究者とのネットワークをさらに強化し、恒常的でより親密な研究者交流をめざして、海外研究交流室が中心となり海外研究交流シンポジウムを実施しています。

平成22年度は、ヨーテボリ大学(スウェーデン)の研究者を日文研に招いて開催しました。

### 国際研究集会

日本の文化、社会に対する世界各国の関心の高まりにともない、研究者の問題意識、研究方法も著しく多様化してきています。このような状況に対応するため、主として日文研での共同研究をテーマに、昭和63年から国際研究集会を開催し、日本研究発展のための国際的な討論の場を設けています。

また、各研究集会の期間中には、普及活動の一環として公開講演会を実施しています。

## 共同利用

### 図書館

中央に東屋風のサービスカウンターを配置した円形図書館は、3層の吹き抜け構造になっており、落ち着いた利用空間を提供しています。図書館では、日



図書館

本研究に必要な各種資料を幅広く収集し、研究者の利用に供するとともに、さまざまな情報提供に努めています。平成7年に増設した資料館および平成22年に新設した第二図書資料館(外書館)には、固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、マイクロ資料室などが配置されています。また、自由接架方式を採用していますので、利用者は47万冊の図書を自由に手に取って閲覧することができます。

なお、個々の資料の配架場所・貸出状況は各フロア配置の検索用端末機で調べることができます。

### 資料の収集

日文研における資料収集方針は、外国語で書かれた日本研究図書および記書の網羅的収集、日本研究に必要な基本図書・雑誌の収集、日本研究に関する文献目録などの網羅的収集としています。その他、幕末明治期のガラス写真・色彩写真、古地図、ビデオ・CDなどの映像音響資料、科学史関連資料、医学史関連資料、日中関係資料なども積極的に収集しています。



日文研所蔵古写真(GION STREET KYOTO【GION STREET KYOTO】)

### 資料の利用

収集した図書・資料は広く研究者の利用に供しています。外部の方も学術研究・調査を目的に事前申請のうえ閲覧することができます。これらは、ウェブで検索でき、図書館間相互利用制度により文献複写や現物貸借サービスを申込みことができます。

## データベースなどの公開

日文研が収集した日本研究資料、日文研教員の研究成果をはじめ、日文研以外の機関所有の日本研究資料などのデータベース化を推進し、現在50本のデータベースをウェブで公開しています。また、検索エンジンも備えていることから、世界中の幅広い日本研究の推進に役立てられています。平成22年度には、「怪異・妖怪画像」データベースを新たに公開しました。

ウェブでの公開は資料のデータベースばかりでなく、インターネット放送による学術講演会などの公開も行っており、講演会当日はリアルタイムで視聴可能です。平成9年度以降に行われた180本分の講演記録をインターネット放送で公開しています。



「怪異・妖怪画像」データベース

## 東京講演会

東京において日本研究の普及を目的に、総合テーマ「日本文化を考える」と題して日文研の教員・外国人研究員による講演会を開催しています。

## 公開講演会

日文研で開催される国際研究集会・国際シンポジウムの期間中に、普及活動・社会貢献の一環として公開講演会を開催しています。

## 一般公開

日文研の日頃の研究活動を広く社会一般に紹介することを目的に毎年秋に実施しています。教員による講演会やセミナーの開催をはじめとし、日文研所蔵の貴重図書・資料の展示、教員の案内による施設見学を行っています。



一般公開

## 社会連携

「社会に開かれた研究機関」として、研究活動・研究協力活動により得られた成果を広く社会に還元するため、以下のような普及活動を行っています。

## 学術講演会

年3～4回、日文研講堂において、日文研の教員・外国人研究員による研究成果の発表と日本研究の普及を目的として学術講演会を開催しています。

## 大学院教育

日文研には、総合研究大学院大学の文化科学研究科(国際日本研究専攻)が設置されています。同専攻(博士後期課程)には国外からの留学生を含む大学院学生が学んでおり、国際的視野から学際的、総合的な日本研究を推進する教育と研究が行われています。

また、特別共同利用研究員制度により、大学の要請に応じて大学院学生を受け入れ、研究指導に協力しています。



# 総合地球 環境学研究所

RESEARCH INSTITUTE FOR HUMANITY AND NATURE



総合地球環境学研究所

## 概要

総合地球環境学研究所(地球研)は、「地球環境問題の根源は、人間文化の問題にある」という基本認識のもと、「地球環境問題に関する総合的研究」を行うことを目的として創設され、今年度で創立10周年を迎えました。地球環境問題の解決には、自然科学系と人文学・社会科学系の研究者が協働して、問題を全体、総体として把握する姿勢が必要です。めざしている「総合地球環境学」は、地球環境問題に関する統合知consilienceを構築し、人間科学humanicsとして人間の生き方そのものを問うものです。第2期中間目標期間には、研究推進戦略センター(CCPC)に「基幹研究ハブ」を置き、環境問題の本質を「人間と自然系との相互作用環」として解明することに加え、問題の解決につながる道筋を探究する「未来設計イニシアティブ」に沿った研究シーズの発掘や、研究成果の発信をめざしています。

総合地球環境学を構築する枠組みとして、循環、多様性、資源、文明環境史、地球地域学の5つの領域プログラムを設定し、研究プロジェクトは領域プログラムのいずれかに属して、枠組みにおける位置づけを常に明確にしなが、さまざまな課題に取り組んでいます。

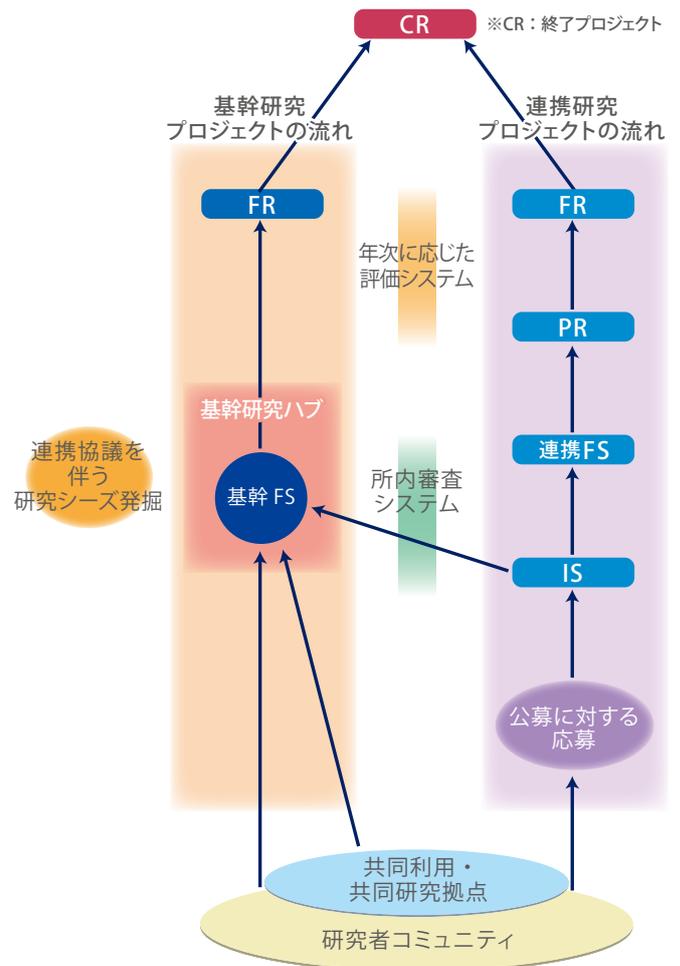
また、CCPCにおいては、地球研の研究プロジェクトで得られた成果の集積・分析・発信を進めるとともに、新たな研究を創出するための戦略を策定する重要な機能を担っています。

## 研究

地球研における研究は、研究プロジェクト方式と研究者任期制の2つの原則で進められています。研究部のスタッフはいずれかのプロジェクトを担当し、一部はプロジェクトリーダーとなって、国内外の研究者と共同研究を進めています。

研究プロジェクト方式とは、基本的に独立したプロジェクトにおいて研究を実施することであり、立ち上げから終了後に至る各段階で、計画の妥当性、実

### 研究プロジェクトの立ち上げ方と進め方



行の可能性、成果の意義について評価を受けることを根幹に置いています。

研究プロジェクトの立ち上げには、まず、地球研内外から公募によって採択されたインキュベーション研究(IS)を実施し、研究シーズが発掘されます。研究プロジェクトを企画する段階に至ったと判断されたものは、予備研究(FS、半年から1年間)を行います。その成果は、地球研内での討議・審査をふまえ、外国人研究者を含めた地球研外の研究者や有識者から構成される「研究プロジェクト評価委員会」で審査されます。適切と認められたものは、運営会議の承認を経て本研究(FR)に進むことができます。本研究は、プレリサーチ(PR、1年間の準備期間)を経て、3～5年の研究を実施します。

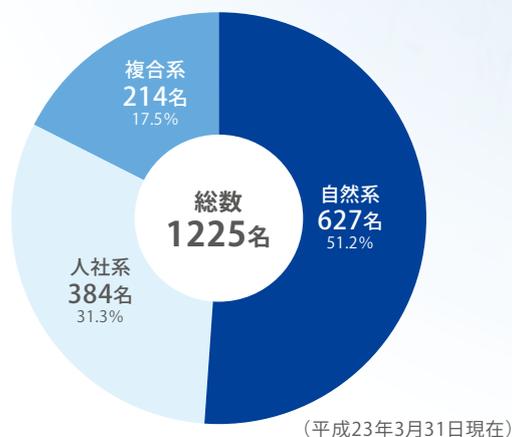
平成23年度には、上述した手順に加えて、「総合地球環境学の構築」という地球研の目標実現に向けて、CCPCに設置された基幹研究ハブにおいて集中的・効率的に育成された基幹FSが、研究プロジェクト評価委員会の審査を経て、「基幹研究プロジェクト」としてスタートしました。

## 共同研究

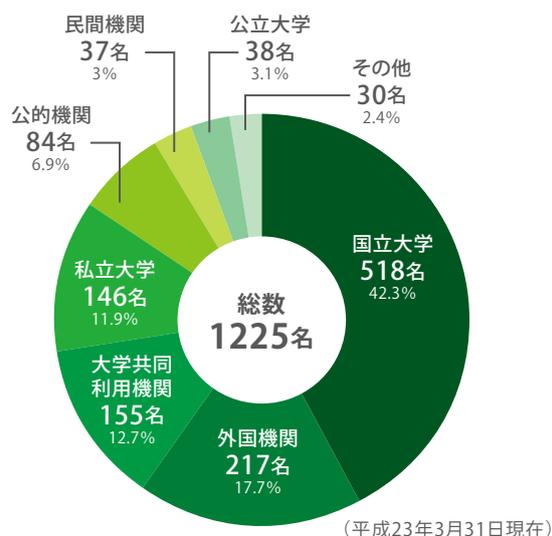
### 頭脳の共同利用

地球研では平成22年度までにFR14本が終了し、その成果はさまざまな形で発信され、活用がなされています。平成22年度は、14本のFRと1本のPRにおいて、総勢1,000名を超える国内外の研究者が共同研究に参画しました。地球研の研究プロジェクトが、「広い意味での人間文化としての地球環境問題を考える」という基本方針に沿って進められていることから、研究プロジェクトには自然科学系から人文学・社会科学系までの非常に広い学問分野から研究者が参加しています。また、参加者の所属も、国公立大学や公的機関の研究所だけでなく民間研究機関などさまざまです。

平成22年度 研究分野構成比率



平成22年度 共同研究者所属機関構成比率



### 調査研究フィールドの共同利用

地球研の研究プロジェクトが調査対象地としている調査研究フィールドは、国内はもとよりアジアを中心に世界各地に展開しています。このほとんどのフィールドにおいて、現地の研究者や実務者と密接に連携して研究プロジェクトの調査研究を進めています。

海外での共同研究は、関係機関と覚書や研究協力協定を結び、共同調査や分析の推進、資料や成果の共

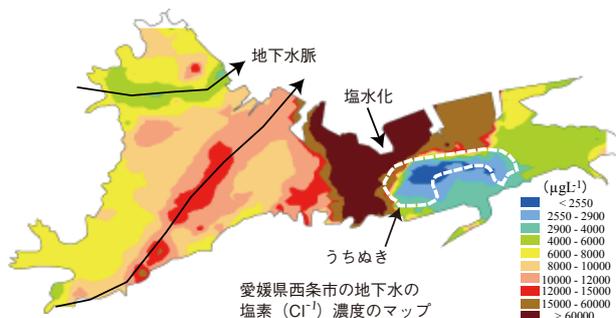
有、人的交流などを進めています。また、外国人研究者をプロジェクトの中核的メンバーとして受け入れています。さらに、地球研では、こうした共同研究の経験とネットワークを活かし、国内の関連研究機関と連携して、地域・環境に関する情報の共有化を進めています。



ラオス中南部ラハナム村での訪問診療風景。医師が無料診察に来たので多くの村人が参加している。

### 施設と機器の共同利用

地球環境問題の解決には、科学的な環境診断とともに、その診断結果を利害関係者や市民が広く理解し、研究者と情報を共有することが重要です。地球研では、高い精度をもつ安定同位体分析機器(物質の発生源や産地の同定)やDNA分析機器(生物種や品種の決定)だけでなく、操作性に優れた基本的な機器類を整備し、試料がもつ多種多様な環境情報を得るための技術開発を行っています。これら最新鋭の機



元素分析装置を用いた水質診断

器から得られる情報を統合し、社会に発信することで、総合地球環境学の構築を図っています。

地球研では、四国の水の都と言われる西条市と協定を結び、名水「うちぬき」の保全をはじめとする研究を行っています。この図は、市民と協力して採取した1,000地点の地下水の水質マップの一例で、新しい科学的な発見とともに、水環境保全に利用されています。

## 社会連携

### 地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題について幅広い問題提起やディスカッションを行うことを目的に、年1回開催しています。平成22年度は「私たちの暮らしのなかの生物多様性」と題して開催しました。なお、平成23年度は次のとおり開催します。

#### 第10回地球研フォーラム

「足もとの水を見つめなおす」

開催日:平成23年7月3日

場所:国立京都国際会館

### 地球研市民セミナー

地球研の研究成果や環境問題の動向をわかりやすく一般市民に紹介することを目的に、地球研または京都市内の会場において定期的に開催しています。会場から熱心な質問が毎回寄せられています。平成16年度から始まったこのセミナーも平成22年度末までに計42回開催しており、平成23年度はさらに6回程度開催する予定です。

### 地球研地域連携セミナー

国内の大学や研究機関と協働で行うセミナーです。地域には地域固有の環境問題があります。一方で、そのような環境問題は、世界のほかの地域でも見られます。世界と日本で共通する課題について、地元の大学・研究機関・行政とともに、問題の根底を探

り、解決のための方法を考えてゆくセミナーです。平成22年度は愛知県名古屋市にて開催しました。平成23年度は北海道札幌市にて開催します。



平成22年度 第8回地球研地域連携セミナー

## 出版物

ニュースレター『地球研ニュース』

(Humanity & Nature Newsletter)

地球研として何を考え、どのような活動を行っているのか、また地球研には誰がいて、どのような研究活動をしているかなどの最新情報を、研究者コミュニティに向けて発信するもので、隔月で刊行しています。特に地球研にかかわっている内外の研究者を対象に、コミュニケーションの場のひとつとして機能することをめざしています。

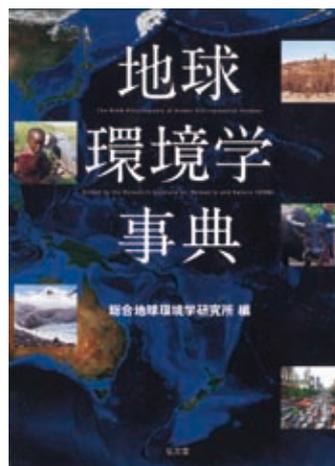
## 地球研叢書

地球研の研究内容や成果の意味を学問的にわかりやすく紹介する出版物で、広く一般書店にて販売されています。平成23年度には『魚附林の地球環境学—親潮・オホーツク海を育むアムール川』(白岩孝行著、2011年3月)を刊行しました。

## 地球環境学事典

地球研創立10周年を迎えるにあたって研究成果を統合した『地球環境学事典』(地球研編、2010年10月)を刊行しました。地球環境問題のさまざまな課

題について、単なる解説ではなく、これからどのようにして対応してゆかなければならないのか、「考えさせる」事典をめざして編集しています。専門用語に頼らず、平易な言葉で高校生にもわかるようにしたのも工夫を凝らした点です。



地球環境学事典

## 大学院教育

地球研では、総合地球環境学を担う若手研究者を育成する目的で、研究プロジェクトを連携して進めている名古屋大学と協定を交わし、平成22年度から同大学大学院環境学研究科の大学院学生の研究指導に連携大学院方式で参加しています。このほかにも、今後の大学院教育の展開を視野に入れて、研究プロジェクトの実施と並行して、次の事業を推進しています。

ひとつ目は、国立大学法人などから大学院学生を特別共同利用研究員として受け入れ、研究指導を行っています。特に、人間と自然の関係を対象とする人類学、植物学、生態学、地理学、農学など、総合地球環境学に密接に関連する分野の大学院学生を積極的に受け入れています。

ふたつ目は、博士課程修了後の若手研究者をプロジェクト研究員として積極的に採用し、研究プロジェクトにおける研究に加えて、企画・運営や異分野研究者との交流へも参画させることにより、研究活動の「幅と奥行き」の拡大を意図した育成を行っています。



# 国立民族学博物館

NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY



国立民族学博物館

## 概要

国立民族学博物館(みんぱく)は、文化人類学・民族学に関する調査・研究を行い、その成果をとおして、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人びとに提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的としています。

## 研究

### 機関研究

機関研究は、個人で行うのが難しい規模の大きな課題、学際的な追究を必要とする課題、広く人文社会科学に共通する重要な基礎的課題について、みんぱくの組織をあげて取り組む研究です。文化人類学・民族学の研究センターとしてのみんぱくの特徴を活かし、学術的、社会的要請に応えるために、分野横断的で先進的な課題を取り上げます。また、研究の過程では研究の国際化および国内外の研究機関との制度的連携を図ることにより、研究の高次化を推進します。

第2期中期目標期間に基づく機関研究が「包摂と自律の人間学」「マテリアリティの人間学」の2領域のもとに実施されています。これらは、文化人類学・民族学および関連諸分野の発展に寄与し、人文社会科学の再編や新しい分野の創出に貢献することが期待されます。

### 共同研究

共同研究は、文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて、みんぱく内外の専門家が共同で行う学際的研究です。平成22年度実施の課題数43件のうち、みんぱくの教員を代表者とするものが18件、客員教員・特別客員教員を代表者とするものが5件、公募によるみんぱく外の研究者を代表者とするものが17件、若手研究者による共同研究は3件です。

### 各個研究

各個研究は、研究者個人が自由な発想に基づいて企画、立案し、実施する研究であり、人文社会科学の研究機関であるみんぱくの研究活動の基盤になるものです。

### 研究組織

民族社会研究部、民族文化研究部、先端人類科学研究部の3研究部と、2つのセンターがあります。研究戦略センターは、文化人類学・民族学と関連諸分野の最新の研究動向をふまえ、みんぱくの研究活動の戦略を策定します。文化資源研究センターは、文化資源の体系的な管理と情報化、およびその共同利用や社会還元に向けて基礎研究や開発研究を行うとともに、事業推進の企画・調整を目的としています。

平成23年度には、国際学術交流室において、これまでの海外の研究機関・研究者との関係を活かし、より戦略的・組織的な連携・協力を推進するため、海外との協力事業のための戦略策定を行います。

### 研究成果の公開

#### 出版活動

各個研究、共同研究、国際シンポジウム、科学研究費補助金などによる研究成果を広く社会に公開するために、『国立民族学博物館研究報告』『Senri Ethnological Studies (SES)』『国立民族学博物館調査報告「Senri Ethnological Reports (SER)」』『国立民族学博物館研究年報』『民博通信』を出版しています。国内外の出版社からの刊行も制度的に奨励しており、平成22年度は4点の刊行物が出版されました。

## 研究成果公開プログラム

研究成果を効果的に公開し社会還元を図る目的で実施しています。平成22年度は、国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」、研究フォーラム「ビジネスと人類学の国際フォーラム—ビジネスと聖空間」など、あわせて11件の国際研究集会を実施しました。



研究フォーラム  
「ビジネスと人類学の国際フォーラム—ビジネスと聖空間」

## 共同利用

文化人類学・民族学を核とする諸分野の資料や情報を集積・整備して国内外研究者の共同利用に資するとともに、展示や各種事業などを通じて研究成果の社会還元を行っています。

みんぱく所蔵の諸資料は、みんぱく内外における諸分野の研究や大学教育への活用、および他の博物館への貸付けなどとおして、共同利用に供しています。

標本資料：276,307点、映像音響資料：70,456点、文献図書資料：図書630,938冊／雑誌16,416種、HRAF (Human Relations Area Files)：地域(民族集団)ファイル385ファイル／原典(テキスト)7,141冊。

平成18年度から「民族学資料共同利用窓口」を設置し、所蔵資料の利用に関する問合せに対応しています。

<http://www.minpaku.ac.jp/kyodomado.html>

みんぱくの研究・展示、所蔵資料および施設などの利用手続きをまとめた「大学のためのみんぱく活用マニュアル」を作成し、大学関係者に教育の場としての利用をすすめています。

## みんぱく図書室

図書館間の相互協力を積極的に取り組み、他大学図書館などからの文献複写や貸借の申込みに対応しています。また、土曜日も開室し、一般利用者も含めて図書の館外貸出しも行っています。文献図書資料だけでなく、アーカイブ資料の整理や提供も行っています。図書室内にはカラーや上向きに対応した複写機も備え、教育・研究活動を支援しています。

## データベース

文化人類学・民族学にかかわる膨大な研究資料情報を、インターネットでみんぱく内外の研究者に提供しています。みんぱく所蔵の標本資料や映像・音響資料、文献・図書資料などの目録情報ははじめ、「韓国生活財データベース」「中西コレクションデータベース—世界の文字資料—」「ボントック語音声画像辞書(英語版)」などがあります。多くは、画像情報を含んでいます。

## 展示

### 本館展示

本館展示は、世界を9地域に分けた地域展示と、音楽・言語の通文化展示を常設しています。地球規模の変化の時代に生きる人びとの暮らし、またその姿をいきいきと伝えるため、平成20年度から本館展示の新構築に着手しています。アフリカ展示・西アジア展示・音楽展示・言語展示・共同利用展示場に引続き、平成22年度にはオセアニア展示・アメリカ展示を一般公開しました。平成23年度は、ヨーロッパ展示とインフォメーション・ゾーンを新しくする予定です。



新しくなったオセアニア展示



新しくなったアメリカ展示

また、本館展示場においては今日的な問題や先端の研究課題などを紹介する企画展示も開催します。平成23年度は、特別展「ウメサオタダオ展」の関連企画である「民族学者 梅棹忠夫の眼」展(平成23年3月3日～6月14日)などを開催しました。

### 特別展示

特別展示は、特定のテーマに関する最新の研究成果を総合的・体系的に紹介する大規模な展示で、特別展示館において開催します。

#### 「ウメサオタダオ展」

平成23年3月10日～6月14日

国立民族学博物館の創設に尽力し、初代館長をつとめた梅棹忠夫は、つねに分野をこえて、平易なことばで、斬新な知見をしめしてきました。かれの足跡をたどりながら、その思想の先見性や実効力をあらためて発見していただきます。世界中をあるき、文明論を構築していった知的先覚者の軌跡は、混迷の時代をこえて未来をつくる羅針盤となるにちがひありません。



特別展「ウメサオタダオ展」

#### 「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし —ドイツコレクションを中心に」

平成23年10月6日～12月6日

この特別展では、19世紀末から20世紀初頭に千島、樺太、北海道などの各地で収集されたアイヌの人々の生活用具を中心に展示して、当時の彼らの豊かで多様な暮らしを紹介します。展示されるのは、ほぼ同時期に収集されたドイツのライプツィヒとドレスデンの民族学博物館の資料と、みんぱくに収蔵されている旧東京大学理学部人類学教室の資料です。

## 社会連携

### 学術講演会

文化人類学・民族学をとおした異文化理解と、みんぱくの学術研究機関としての役割を理解してもらうために、先端的な研究活動の成果を社会に積極的に還元しています。平成22年度は、公開講演会「世界の結婚事情」(平成22年10月東京)、「自然と向きあう人びとの今」(平成23年3月大阪)を実施しました。

### 国際連携

平成22年度は新たに、英国のエジンバラ大学、マダガスカルのアナタナリヴ大学、ペルーの教皇庁立ペルーカトリカ大学、ロシアのロシア民族学博物館と、それぞれに学術研究交流を目的とした協定を締結しました。また、ペルーの国立サン・マルコス大学との協定に基づきパコパンバ遺跡(ペルー)の共同発掘調査を実施し、その報告を国立サン・マルコス大学および古代アメリカ学会で発表しました。

また、国際協力機構(JICA)集団研修「博物館学集中コース」を、滋賀県立琵琶湖博物館と共同で運営しています。博物館の運営に必要な実践的技術の研修を実施し、各国文化の振興に貢献できる人材を育成しています。

### 広報出版

『MINPAKU Anthropology Newsletter』『月刊みんぱく』などの定期刊行物、ならびに『国立民族学博物館展示ガイド』、特別展の展示図録や案内リーフレッ

トなどの展示関連刊行物をとおして、研究やさまざまな活動を広報しています。

### ゼミナール、ウィークエンド・サロン

研究部の教員などによる最新の研究成果に関する「みんぱくゼミナール」を毎月第3土曜日に実施しています。また、平成19年度からは、研究部の教員と来館者が展示場内で、より身近に語り合いながら、みんぱくの研究を知っていただく「みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう」を、ほぼ毎週日曜日に開催しています。



みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう

### みんぱく映画会

文化人類学・民族学に関する貴重な映像資料を、教員の解説を交えて上映しています。平成22年度は、機関研究に連動する「みんぱくワールドシネマ—映像に描かれる〈包摂と自律〉」のシリーズや、「民族学者とヒマラヤ・南極」のシリーズなど、計9回開催しました。

### 研究公演

世界の諸民族の音楽や芸能などを紹介し、文化人



研究公演「揺さぶる力—大阪浪速(なにわ)の太鼓打ち」

類学・民族学への理解を深めてもらうことを目的としています。平成22年度は、「日本に舞う中国の龍と獅子—チャイナタウンに見る文化の継承と伝播」「揺さぶる力—大阪浪速(なにわ)の太鼓打ち」など、計9件の公演を行いました。

### 新展示プロモーション

新構築した音楽展示および言語展示を広く社会へ紹介するために、「音の力—夏のみんぱくフォーラム2010」「春のみんぱくフォーラム2011—ことばの世界へ」として、研究公演、映画会、ゼミナール、ウィークエンド・サロン、言語講座「ことばで世界一周」などの各種イベントを開催しました。

### 学習キット「みんぱつく」

世界諸地域の衣装、楽器、道具、学用品などをスーツケースにパックした学習機材です。10種類20パックを用意し、学校や各種社会教育施設などを対象に貸出しています。また、さまざまな教育プログラムに協力しています。

### みんぱく e-news

研究情報や各種事業のお知らせを、月1回程度電子メールで配信しています。

<http://www.minpaku.ac.jp/e-news/>

## 大学院教育

みんぱくには総合研究大学院大学の文化科学研究科(地域文化学専攻、比較文化学専攻)が設置されています。両専攻(博士後期課程)では、独創的な文化人類学・民族学の研究、長期のフィールドワークで得られた資料に基づく学位論文の作成、および広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしています。学生の受け入れを開始した平成元年に第1期生が入学して以来、課程博士50名、論文博士25名を輩出してきました。

また、特別共同利用研究員の制度を設けて、国公立大学の大学院学生を受け入れて指導することで、他大学の大学院教育に協力しています。

# 資料 委員会一覧

## 経営協議会

◆ 金田 章裕	機構長
中尾 正義	理事
小野 正敏	理事
栗城 繁夫	理事(兼)事務局長
石上 英一	理事
平川 南	国立歴史民俗博物館長
今西 祐一郎	国文学研究資料館長
影山 太郎	国立国語研究所長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
須藤 健一	国立民族学博物館長
稲盛 豊実	(財)稲盛財団専務理事
岩男 壽美子	慶應義塾大学名誉教授
大原 謙一郎	(財)大原美術館理事長
後藤 祥子	日本女子大学理事
栄原 永遠男	大阪市立大学特任教授
高村 直助	(財)横浜市ふるさと歴史財団理事長
永井 多恵子	ジャーナリスト
平田 保雄	日本経済新聞社取締役副会長
藤井 宏昭	(独)国際交流基金顧問
古澤 巖	鳥取環境大学長
宮崎 恒二	東京外国語大学理事

## 教育研究評議会

◆ 金田 章裕	機構長
中尾 正義	理事
小野 正敏	理事
平川 南	国立歴史民俗博物館長
今西 祐一郎	国文学研究資料館長
影山 太郎	国立国語研究所長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
須藤 健一	国立民族学博物館長
青山 宏夫	国立歴史民俗博物館副館長
谷川 恵一	国文学研究資料館副館長
木部 暢子	国立国語研究所副所長
小松 和彦	国際日本文化研究センター副所長
佐藤 洋一郎	総合地球環境学研究所副所長/研究推進戦略センター長
西尾 哲夫	国立民族学博物館研究戦略センター長
青柳 正規	国立西洋美術館長
大塚 柳太郎	(財)自然環境研究センター理事長

カイザー・シュテファン	國學院大學文学部教授
窪田 幸子	神戸大学大学院国際文化学研究科教授
酒井 啓子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院・先端研究部門(国際社会部門)教授
佐藤 宗諱	奈良女子大学名誉教授
森 正人	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
鷺田 清一	大阪大学総長

## 総合研究推進委員会

◆ 中尾 正義	理事
青柳 正規	国立西洋美術館長
大塚 柳太郎	(財)自然環境研究センター理事長
カイザー・シュテファン	國學院大學文学部教授
窪田 幸子	神戸大学大学院国際文化学研究科教授
酒井 啓子	東京外国語大学大学院総合国際学研究院・先端研究部門(国際社会部門)教授
佐藤 宗諱	奈良女子大学名誉教授
森 正人	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授
鷺田 清一	大阪大学総長
宮崎 恒二	東京外国語大学理事
羽田 正	東京大学東洋文化研究所長
榎原 雅治	東京大学史料編纂所長
岩井 茂樹	京都大学人文科学研究所長
平川 南	国立歴史民俗博物館長
武井 協三	国文学研究資料館副館長
影山 太郎	国立国語研究所長
小松 和彦	国際日本文化研究センター副所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
佐々木 史郎	国立民族学博物館副館長
小野 正敏	理事

## 評価委員会

◆ 金田 章裕	機構長
中尾 正義	理事
小野 正敏	理事
栗城 繁夫	理事(兼)事務局長
大崎 仁	機構長特別顧問
久留島 浩	国立歴史民俗博物館副館長
寺島 恒世	国文学研究資料館研究主幹
相澤 正夫	国立国語研究所副所長
牛村 圭	国際日本文化研究センター研究部教授
渡邊 紹裕	総合地球環境学研究所副所長
岸上 伸啓	国立民族学博物館先端人類科学研究部長
宮崎 恒二	東京外国語大学理事

酒井 啓子 東京外国語大学大学院総合国際学研究院・先端研究部門(国際社会部門)教授  
 水田 健輔 東北公益文科大学公益学部教授  
 水本 邦彦 長浜バイオ大学教授  
 山本 真鳥 法政大学経済学部教授

### 機構会議

❖ 金田 章裕 機構長  
 中尾 正義 理事  
 小野 正敏 理事  
 栗城 繁夫 理事(兼)事務局長  
 石上 英一 理事  
 平川 南 国立歴史民俗博物館長  
 今西 祐一郎 国文学研究資料館長  
 影山 太郎 国立国語研究所長  
 猪木 武徳 国際日本文化研究センター所長  
 立本 成文 総合地球環境学研究所長  
 須藤 健一 国立民族学博物館長

### 企画・連携・広報室会議

❖ 小野 正敏 理事  
 久留島 浩 国立歴史民俗博物館副館長  
 谷川 恵一 国文学研究資料館副館長  
 木部 暢子 国立国語研究所副所長  
 小松 和彦 国際日本文化研究センター副所長  
 秋道 智彌 総合地球環境学研究所研究推進戦略センター教授  
 杉本 良男 国立民族学博物館副館長

### 研究資源共有化事業委員会

❖ 石上 英一 理事  
 木部 暢子 国立国語研究所副所長  
 安達 文夫 国立歴史民俗博物館研究部教授  
 古瀬 蔵 国文学研究資料館研究部教授  
 高田 智和 国立国語研究所理論・構造研究系准教授  
 関野 樹 総合地球環境学研究所研究推進戦略センター准教授  
 松田 利彦 国際日本文化研究センター研究部准教授  
 山本 泰則 国立民族学博物館文化資源研究センター准教授  
 久保 正敏 国立民族学博物館文化資源研究センター教授  
 安永 尚志 国文学研究資料館名誉教授  
 柴山 守 京都大学東南アジア研究所教授  
 原 正一郎 京都大学地域研究統合情報センター教授

栗城 繁夫 理事(兼)事務局長

### 地域研究推進委員会

❖ 金田 章裕 機構長  
 飯塚 正人 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授  
 小野 元之 (独)日本学術振興会理事長  
 佐藤 慎一 東京大学理事・副学長  
 斯波 義信 (財)東洋文庫文庫長  
 田中 耕司 京都大学次世代研究者育成センタープログラムマネージャー  
 田辺 明生 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授  
 長崎 暢子 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー 龍谷大学/東京大学名誉教授  
 濱下 武志 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー  
 平野 健一郎 国立公文書館アジア歴史資料センター長 早稲田大学/東京大学名誉教授  
 山田 辰雄 慶應義塾大学名誉教授  
 湯川 武 早稲田大学イスラーム地域研究機構客員上級研究員  
 渡邊 幸治 (公財)日本国際交流センターシニアフェロー  
 中尾 正義 理事/地域研究推進センター長  
 大崎 仁 機構長特別顧問  
 立本 成文 総合地球環境学研究所長  
 須藤 健一 国立民族学博物館長

### 日本関連在外資料調査研究委員会

❖ 金田 章裕 機構長  
 小野 正敏 理事  
 中尾 正義 理事  
 栗城 繁夫 理事(兼)事務局長  
 石上 英一 理事  
 青山 宏夫 国立歴史民俗博物館副館長  
 谷川 恵一 国文学研究資料館副館長  
 木部 暢子 国立国語研究所副所長  
 小松 和彦 国際日本文化研究センター副所長  
 佐々木 史郎 国立民族学博物館副館長  
 榎原 雅治 東京大学史料編纂所長  
 羽田 正 東京大学東洋文化研究所長  
 水野 直樹 京都大学人文科学研究所教授  
 ヨーゼフ・クライナー 法政大学国際戦略機構特別教授  
 小川 忠 (独)国際交流基金日本研究・知的交流部長  
 荻原 真子 千葉大学名誉教授

※ ❖ 議長または委員長

# 資料 データ一覧

## ❖ 役職員数

(平成23年5月1日現在)

機関名	役員および職員(常勤)		外国人研究員	客員教員(国内)
	種別	現員		
機構本部	役員	7	0	0
	地域研究推進センター研究員	20		
	特定有期雇用職員	1		
	事務・技術職員	25		
国立歴史民俗博物館	館長	1	0	10
	研究教育職員	42		
	特定有期雇用職員	1		
	事務・技術職員	41		
国文学研究資料館	館長	1	0	5
	研究教育職員	30		
	特定有期雇用職員	1		
	事務・技術職員	35		
国立国語研究所	所長	1	1	12
	研究教育職員	25		
	特定有期雇用職員	0		
	事務・技術職員	23		
	研究員	2		
国際日本文化研究センター	所長	1	14	17
	研究教育職員	31		
	特定有期雇用職員	2		
	事務・技術職員	34		
総合地球環境学研究所	所長	1	5	20
	研究教育職員	24		
	特定有期雇用職員	4		
	事務・技術職員	24		
国立民族学博物館	館長	1	4	6
	研究教育職員	57		
	特定有期雇用職員	1		
	事務・技術職員	43		
計	役員	7	24	70
	館長・所長	6		
	研究教育職員	209		
	特定有期雇用職員	10		
	地域研究推進センター研究員	20		
	事務・技術職員	225		
	研究員	2		

(単位:人)

## 非常勤研究員等

(平成23年5月1日現在)

種別	国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国立国語研究所	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
機関研究員	3	6	0	6	0	5	20
リサーチ・アシスタント	10	13	0	1	4	11	39
プロジェクト研究員	1	6	2	9	56	0	74

(単位:人)

### ❖ 予算（平成23年度）

収入	金額	支出	金額
運営費交付金	12,612	業務費	12,911
施設整備費補助金	720	教育研究経費	12,911
補助金等収入	127	施設整備費	769
国立大学財務・経営センター施設費交付金	49	補助金等	127
自己収入	299	産学連携等研究経費および寄附金事業費等	274
雑収入	299		
産学連携等研究収入および寄付金収入等	274		
計	14,081	計	14,081

(単位:百万円)

### ❖ 施設一覧

区分	機構本部	国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国立国語研究所	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
土地面積	-	129,496	18,308	23,980	31,120	31,354	40,821	275,079
建物床面積	643	35,918	16,736	14,523	17,191	12,887	51,225	149,123

(単位:㎡)

### ❖ 共同研究の件数および共同研究員数 在籍（平成22年度）

機関名	共同研究件数	総数	共同研究員の所属機関の内訳						
			国立大学等	公立大学	私立大学	公的機関	民間機関	外国機関	左記以外
国立歴史民俗博物館	38	527	332	18	86	47	17	12	15
国文学研究資料館	11	197	99	6	60	8	6	11	7
国立国語研究所	37	615	355	25	166	10	1	44	14
国際日本文化研究センター	19	625	256	24	201	32	39	31	42
総合地球環境学研究所	30	1225	673	38	146	84	37	217	30
国立民族学博物館	43	771	352	32	237	32	16	74	28
計	178	3960	2067	143	896	213	116	389	136

(単位:件、人)

### ❖ 研究者の受け入れ（平成22年度）

種別	国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国立国語研究所	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
日本学術振興会特別研究員	0	1	0	0	2	7	10
日本学術振興会外国人特別研究員	0	0	2	3	0	5	10
その他外来研究員	11	16	9	21	7	47	111
外国人研究員招へい	8	2	5	25	12	13	65

(単位:人)

## ❖ 外部資金の受け入れ

### 科学研究費補助金 (申請件数)

(平成23年6月1日現在)

機関名	平成23年度	平成22年度	平成21年度
機構本部	1( 0)	1( 0)	1( 0)
国立歴史民俗博物館	36( 19)	30( 15)	31( 23)
国文学研究資料館	38( 21)	39( 24)	45( 34)
国立国語研究所	37( 16)	44( 22)	38( 24)
国際日本文化研究センター	25( 19)	15( 11)	18( 12)
総合地球環境学研究所	58( 30)	67( 48)	71( 53)
国立民族学博物館	53( 22)	61( 28)	71( 39)
計	248( 127)	257( 148)	275( 185)

(単位:件、カッコ内は新規分で内数)

### 科学研究費補助金 (採択件数)

(平成23年6月1日現在)

機関名	採択件数 金額	平成23年度	平成22年度	平成21年度
機構本部	件数	1( 0)	1( 0)	1( 0)
	金額	600	4,100	4,600
国立歴史民俗博物館	件数	27(10)	21( 7)	16( 8)
	金額	84,600	62,100	50,600
国文学研究資料館	件数	30(13)	23( 8)	26(15)
	金額	94,860	75,850	89,400
国立国語研究所	件数	33(12)	32(10)	27(13)
	金額	59,110	89,210	122,283
国際日本文化研究センター	件数	17(11)	10( 6)	6( 0)
	金額	27,300	38,280	36,060
総合地球環境学研究所	件数	36( 8)	34(15)	33(15)
	金額	65,800	70,870	78,580
国立民族学博物館	件数	47(16)	50(17)	47(17)
	金額	156,790	138,520	131,860
計	件数	191(70)	171(63)	156(68)
	金額	489,060	478,930	513,383

(単位:件、千円 カッコ内は新規分で内数)

### 受託研究

機関名	受け入れ	平成22年度	平成21年度	平成20年度
国立歴史民俗博物館	件数	2	2	0
	金額	1,743	3,370	0
国文学研究資料館	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国立国語研究所	件数	0	0	-
	金額	0	0	-
国際日本文化研究センター	件数	1	2	1
	金額	3,500	5,032	4,100
総合地球環境学研究所	件数	17	13	8
	金額	83,045	78,299	58,725
国立民族学博物館	件数	1	2	3
	金額	2,700	1,380	6,510
計	件数	21	19	12
	金額	90,988	88,081	69,335

(単位:件、千円)

### 寄附金

機関名	受け入れ	平成22年度	平成21年度	平成20年度
機構本部	件数	1	0	0
	金額	2,400	0	0
国立歴史民俗博物館	件数	2	2	2
	金額	6,000	5,210	3,000
国文学研究資料館	件数	69	39	30
	金額	3,683	1,200	1,439
国立国語研究所	件数	1	0	-
	金額	2,453	0	-
国際日本文化研究センター	件数	5	4	7
	金額	5,500	2,000	9,663
総合地球環境学研究所	件数	8	5	6
	金額	20,925	10,375	7,520
国立民族学博物館	件数	5	6	9
	金額	5,063	10,910	5,128
計	件数	91	56	54
	金額	46,024	29,695	26,750

(単位:件、千円)

### その他の外部資金

機関名	受け入れ	平成22年度	平成21年度	平成20年度
国立歴史民俗博物館	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国文学研究資料館	件数	1	0	0
	金額	2,000	0	0
国立国語研究所	件数	1	0	-
	金額	2,880	0	-
国際日本文化研究センター	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
総合地球環境学研究所	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国立民族学博物館	件数	3	2	1
	金額	15,980	3,700	1,200
計	件数	5	2	1
	金額	20,860	3,700	1,200

(単位:件、千円)

## ❖ 協定締結一覧

(平成23年5月1日現在)

機関	締結国・地域数	締結機関数	おもな相手機関名(国名・地域名)
機構本部	4	4	芸術・人文リサーチ・カウンシル(英国)／国際アジア研究所(オランダ)／フランス高等研究所(フランス)／ミュンヘン国立民族学博物館(ドイツ)
国立歴史民俗博物館	4	9	国立中央博物館(韓国)／カナダ文明博物館(カナダ)／イリノイ大学(米国)／中国社会科学院考古研究所(中国)／国立釜山大学校博物館(韓国)など
国文学研究資料館	6	6	コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス)／コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ)／ライデン大学文学部(オランダ)／高麗大学校日本研究センター(韓国)など
国際日本文化研究センター	1	1	ドイツポツダム地球学研究所(ドイツ)
総合地球環境学研究所	21	37	フランス人文科学館(フランス)／タイ王国農業協同組合省イネ局(タイ)／ラオス保健省・国立公衆衛生研究所(ラオス)／スーダン科学技術大学(スーダン)／インドネシア科学院(インドネシア)など
国立民族学博物館	7	10	ロシア民族学博物館(ロシア)／エジンバラ大学(英国)／故宫博物院(中国)／順益台湾原住民博物館(台湾)／国立サン・マルコス大学(ペルー)など

※詳しい情報はウェブに掲載しております。

## ❖ 大学院教育 総合研究大学院大学

### 学位授与状況

(平成22年度)

文化科学研究科	文学	14(2)
	学術	1(2)

(単位：人、カッコ内は論文博士で外数)

### 在学生数

(平成23年5月1日現在)

	研究科	専攻	機関	3年次(1年次)	4年次(2年次)	5年次(3年次)	計
後期3年博士課程	文化科学	地域文化学	国立民族学博物館	1(0)	1(0)	11(2)	13(2)
		比較文化学	国立民族学博物館	2(0)	4(3)	11(2)	17(5)
		国際日本研究	国際日本文化研究センター	3(3)	4(2)	9(2)	16(7)
		日本歴史研究	国立歴史民俗博物館	0(0)	2(0)	12(1)	14(1)
		日本文学研究	国文学研究資料館	2(0)	2(0)	9(2)	13(2)
		計		8(3)	13(5)	52(9)	73(17)

(単位：人、カッコ内は留学生で内数)

## ❖ 特別共同利用研究員

(平成23年5月1日現在)

国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国立国語研究所	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
3	0*	0	3	1	5	12

\*募集期間中(単位：人)

## 国立歴史民俗博物館

〒285-8502

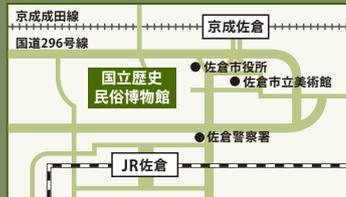
千葉県佐倉市城内町117

TEL:043-486-0123(代表)

<http://www.rekihaku.ac.jp/>

【最寄り駅】

京成成田線「京成佐倉駅」(徒歩15分)・JR佐倉駅→  
ちほクリーンバス15分(「国立歴史民俗博物館入口」下車)



## 国文学研究資料館

〒190-0014

東京都立川市緑町10-3

TEL:050-5533-2900(代表)

<http://www.nijl.ac.jp/>

【最寄り駅】

多摩モノレール「高松駅」(徒歩7分) JR「立川駅」(徒歩25分)  
JR「立川駅」北口バスのりば1番より立川バスで  
「立川市役所」下車(徒歩3分)



## 国立国語研究所

〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

TEL:042-540-4300(代表)

<http://www.ninjal.ac.jp/>

【最寄り駅】

多摩モノレール「高松駅」(徒歩7分) JR「立川駅」(徒歩20分)  
JR「立川駅」北口バスのりば2番より立川バスで  
「自治大学校・国立国語研究所」下車(徒歩1分)



## 国際日本文化研究センター

〒610-1192

京都府京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL:075-335-2222(代表)

<http://www.nichibun.ac.jp/>

【最寄り駅】

阪急京都線「阪急桂駅」→京都市バス30分(「桂坂小学校前」下車)  
JR東海道本線「桂川駅」→ヤサカバス25分(「花の舞公園前」下車)



## 総合地球環境学研究所

〒603-8047

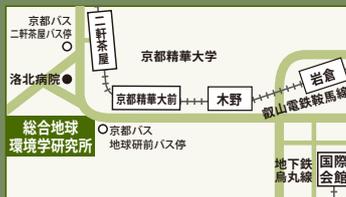
京都府京都市北区上賀茂本山457-4

TEL:075-707-2100(代表)

<http://www.chikyu.ac.jp/>

【最寄り駅】

地下鉄烏丸線「国際会館駅」→京都市バス6分(「地球研前」下車)  
叡山電鉄鞍馬線「二軒茶屋駅」(徒歩10分)



## 国立民族学博物館

〒565-8511

大阪府吹田市千里万博公園10-1

TEL:06-6876-2151(代表)

<http://www.minpaku.ac.jp/>

【最寄り駅】

大阪モノレール「万博記念公園駅」(徒歩15分)



大学共同利用機関法人

## 人間文化研究機構本部

〒105-0001

東京都港区虎ノ門4-3-13

神谷町セントラルプレイス2階

TEL:03-6402-9200(代表)

<http://www.nihu.jp/>

【最寄り駅】

地下鉄日比谷線「神谷町駅」(出口4b徒歩2分)  
地下鉄三田線「御成門駅」(出口A5徒歩10分)



この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

2011年7月発行

